

Corporate Social Responsibility Report

CSR報告書2019



若築建設株式会社

2030年までの国際目標SDGsの取り組み



「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、我が国としても積極的に取り組んでいます。

CONTENTS

ごあいさつ	2
若築建設について	3
若築建設130年のあゆみ	5
創立130周年事業	7
2018年度完成工事	8

TOPICS

サモア独立国の港湾工事	11
けんせつ小町	12

より働きがいのある企業へ

働き方改革	15
職場環境	17
担い手確保の取り組み	19

安全と品質の徹底

安全マネジメントシステム	20
品質の向上	23
技術開発	25
コーポレート・ガバナンス	27
ISO9001活用モデル工事	28
安全と品質の徹底	29
ICT活用工事	31

社会貢献

奨学金制度	35
水難救助活動への協力	36
災害に備えて	37
災害支援活動	38
地域社会とともに	39

環境データ

41

報告書について

対象組織 若築建設株式会社
 対象範囲 若築建設株式会社の事業活動
 対象年度 2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）
 ただし、一部2019年9月までの情報も含まれます。
 発行 2019年10月
 参考資料 ・GRIスタンダード
 ・「環境報告ガイドライン（2018年度版）」環境省

作成部署およびお問い合わせ先

この報告書に関するご意見・お問い合わせは、下記で承っております。

総合システム部
 TEL.03-3492-0280 FAX.03-3490-1019

安全と品質を核とし、
生産性の向上を図ることで、
経営計画の着実な達成を目指す。

代表取締役社長

五百蔵 良平



今年度は、中期経営計画(2018年度～2020年度)の2年目にあたり、創業130周年の節目となる2020年に向けて、各基本戦略を推進し、計画達成に向け全社一丸となって取り組んでいるところです。

その一環として、安全と品質を最優先とするため、安全環境本部を設置して労働災害防止の徹底を図るとともに、本社の土木部、建築部に品質監理室を設置し、各支店の品質アドバイザーと連携して、工事の品質向上に努めております。

また、工事下請契約の支払い条件を全て現金払いに変更しました。この取り組みにより協力業者との結びつき・連携を強固なものとし、当社ならびに協力会社が一体となり、建設業界全体の課題である働き方改革を推進していきます。

生産性の向上も働き方改革の推進には重要な要素となり、現場での施工管理をはじめ、オフィ

スワーク全般的にICT(情報通信技術)の導入を積極的に進めており、成果が見えてきています。

国土交通省では、ICTを建設現場に導入することによって、建設生産システム全体の生産性向上を図り、魅力ある建設現場を目指す取り組みである「i-Construction」を進めています。その中で、当社は、国土交通省関東地方整備局より受注しました河川浚渫工事において、ICT活用工事の実施を希望し、第1号適用が認定されました。

企業を継続的に成長させ、社会からの期待に応えていくためには、SDGs(持続可能な開発目標)への取り組みは不可欠です。当社では、以前から取り組んでおりましたCSR活動および今後の活動目標に、新たにSDGs17項目の目標を取り入れました。本報告書では、当社の活動をSDGs17項目に関連付けて取りまとめております。

2019年10月

創業 ～地域の発展をめざして～

明治時代初期の北九州は、石炭埋蔵量の豊富な筑豊炭田を擁するものの、石炭など物資の輸送問題が地域発展の障害となっていました。

当社は、1890年、海上交通の要衝である洞海湾（若松港）および周辺の運河を改良し、筑豊炭田から採掘された石炭の積出港として開発・運営することを目的として設立されました。設立にあたっては、地元九州を起点とし、渋沢栄一翁をはじめとする東京、大阪の著名な事業家の方々が発起人および株主として集まり、事業の継続に尽力してまいりました。このような民間の資本を利用して公共事業を行う手法は、現在のPFI事業の先駆けともいえるものでした。工事費用は港や運河を利用する船舶から使用料を徴収して賄うという条件で、福岡県知事の許可を受け、改良工事に着手しました。そして、徐々に港の整備が進み、1901年には、八幡村（現・北九州市八幡東区）に官営八幡製鉄所が開設されたことを契機に、洞海湾を中心とする地域は、北九州工業地帯として発展していきました。



本店に残る洞海湾開発の基準点
これは明治時代に洞海湾開発の測量基準点として設けられたものです。

会社概要

商 号	若築建設株式会社 (WAKACHIKU CONSTRUCTION CO.,LTD)
創 立	1890年(明治23年)5月23日
代 表 者	代表取締役社長 五百蔵良平
資 本 金	113億7千4百万円
株式上場	東京証券取引所第一部
従業員数	681名(2019年3月31日現在)
事業内容	国内・国外建設工事、海洋開発、地域・都市開発、環境整備・保全およびその他建設に関する事業、建設コンサルティング、マネジメント事業、不動産事業



事業所一覧

本 店	〒808-0024 北九州市若松区浜町一丁目4番7号	TEL (093)761-1331
東京本社	〒153-0064 東京都目黒区下目黒二丁目23番18号	TEL (03)3492-0271
東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町二丁目10番28号	TEL (022)221-4325
千葉支店	〒260-0027 千葉市中央区新田町4番22号	TEL (043)242-2245
東京支店	〒153-0064 東京都目黒区下目黒二丁目23番18号	TEL (03)3492-0811
横浜支店	〒231-0015 横浜市中区尾上町一丁目6番	TEL (045)662-0814
北陸支店	〒950-0087 新潟市中央区東大通一丁目2番23号	TEL (025)241-1242
名古屋支店	〒460-0003 名古屋市中区錦一丁目11番20号	TEL (052)201-5321
大阪支店	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町二丁目2番8号	TEL (06)6261-6736
中国支店	〒730-0031 広島市中区紙屋町一丁目3番2号	TEL (082)248-1810
四国支店	〒760-0071 高松市藤塚町一丁目2番1号	TEL (087)833-7347
九州支店	〒808-0024 北九州市若松区浜町一丁目4番7号	TEL (093)752-3510
福岡支店	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東一丁目13番9号	TEL (092)483-5307
海外事業所	ジャカルタ事務所(インドネシア共和国)、コロンボ事務所(スリランカ民主社会主義共和国)、ハノイ事務所(ベトナム社会主義共和国)、マレー事務所(モルディブ共和国)	
わかちく史料館	〒808-0024 北九州市若松区浜町一丁目4番7号 当社本店3階 開館時間 午前10時～午後4時 休館日 毎週月曜日・祝祭日・年末年始 入館料 無料 TEL (093)752-1707	



東京本社



わかちく史料館

社長方針

安全と品質を核とし、生産性の向上を図ることで、経営計画の着実な達成を目指す。

社長方針各施策

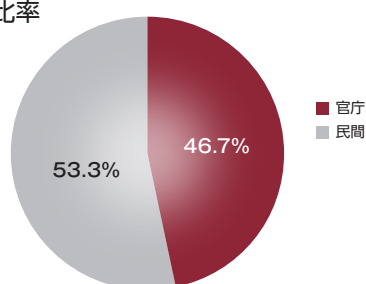
- 官庁の海上土木を柱としながら、民間営業分野を拡充することで、収益基盤の多様化を図る
- 「品質と安全の徹底」を核とし、顧客の信頼をより一層高める
- 東南アジア地域を核とした海外事業の基盤強化を図る
- 競争力を高めるため技術提案力の強化を図る
- 人材確保・育成の強化を図る
- 業務効率の改善、生産性の向上を図る
- 効果あるリスクアセスメントを実践する
- 防災活動、環境保全活動、地域社会との交流を推進し、社会貢献に努める

財務ハイライト

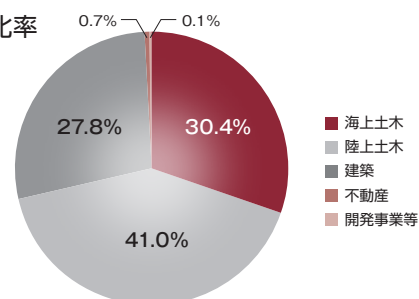
(単位：百万円)

年 度	2014	2015	2016	2017	2018
受注高	83,775	84,284	90,160	91,529	92,326
売上高	69,001	73,428	78,944	89,677	96,284
次期繰越高	65,873	77,875	89,504	90,712	87,417
営業利益	2,093	2,247	2,542	3,312	4,157
(営業利益率)	(3.0%)	(3.1%)	(3.2%)	(3.7%)	(4.3%)
経常利益	1,930	2,107	2,423	3,220	4,052
純利益	2,084	1,939	2,279	2,679	3,053
資産合計	59,192	61,598	67,081	74,701	77,967
純資産	19,986	21,795	23,627	25,740	28,147
自己資本比率	33.8%	35.4%	35.2%	34.5%	36.1%

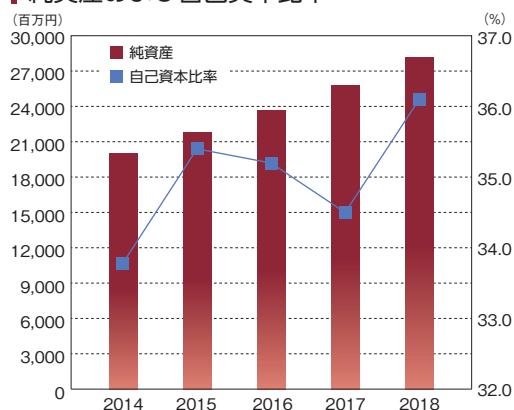
官民受注比率



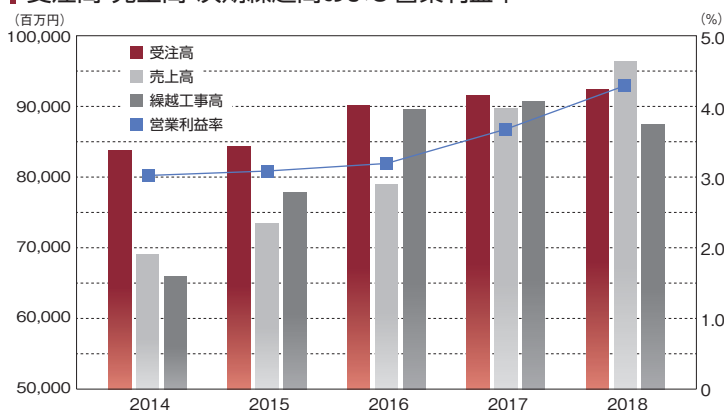
売上構成比率



純資産および自己資本比率



受注高・売上高・次期繰越高および営業利益率



若築建設130年のあゆみ

弊社は、1890年、海上交通の要衝である洞海湾（若松港）および周辺の運河を改良し、筑豊炭田から採掘された石炭の積出港として開発・運営することを目的として設立されました。設立にあたっては、筑豊地方や渋沢栄一をはじめとする東京、大阪の著名な事業家の方々が発起人として集まり、また、株主として事業を継続するための資金獲得に尽力しました。

このような民間の資本を利用して公共事業を行う手法は、現在のPFI事業の先駆けともいえるものでした。

以来129年、海上土木事業のパイオニアとして、豊かな未来を創造するため技術と経験を積み重ね、国内物流や海外への輸出入の拠点となる港湾施設、国際化が進みニーズの高まる空港施設、さらに、都市開発に伴うインフラ事業、風力・太陽光などの再生可能エネルギー関連事業、共同住宅、工場、教育・医療・福祉施設の建設等、「人にも地球にも喜ばれる環境づくり」を目指した事業を展開してまいりました。

今後は、土木事業を中核として、建築事業の収益力を強化し、海外事業の収益基盤を確立させることにより、更なる経営基盤の強化を図るとともに、コーポレートガバナンスを充実させ、防災活動や地域交流にも積極的に取り組み、建設業としての社会的責任を果たしてまいります。



1890年 創業当時の社屋



1897年 藤ノ木埋立工事



1899年 第二洞海丸



1909年 新築された社屋



1956年 砂町埋立地

明治

- 1888年(明治21年) 浚渫会社創立を県に上申
- 1889年(明治22年) 資本金60万円とする若松築港会社設立計画が整う
- 1890年(明治23年) 5月23日を若松築港会社創立の日とする
若松港築港工事着工
- 1892年(明治25年) 明治26年1月1日よりの港銭徴収免許を得る
- 1893年(明治26年) 社名を若松築港株式会社と改称
- 1897年(明治30年) 藤ノ木二島地先埋立工事着工(～1921)
- 1899年(明治32年) パケット式浚渫船第二洞海丸、第三洞海丸を英国に発注
- 1906年(明治39年) 若松港第一次・第二次拡張工事竣工

大正

- 1913年(大正2年) プリストマン浚渫機械7基作業開始
- 1915年(大正4年) サンドポンプ式浚渫船若松丸(80馬力)作業開始
浜船塀所設置工事竣工
- 1917年(大正6年) 若松港第三次拡張工事竣工
- 1926年(大正15年) 戸畑市委託による汐井崎地先一文字海岸埋築
および岸壁築造工事竣工

昭和

- 1933年(昭和8年) 若松市制20周年記念祝賀会で表彰される
- 1938年(昭和13年) 3月31日限りで港銭徴収廃止
会社の目的変更による改正定款認可、港湾工事方面に進出

- 1940年(昭和15年) 若松港第四次拡張工事のうち第一期工事竣工認可
- 1945年(昭和20年) 若松市による戦災者住宅100戸建設工事着工
- 1946年(昭和21年) 従業員組合結成(労働組合)
- 1949年(昭和24年) 建設業登録申請
- 1950年(昭和25年) 定款変更により社長制実施
- 1953年(昭和28年) 当社船舶造修所において1000馬力浚渫船
第一若築丸建造
東京支店開設
- 1955年(昭和30年) 若松港第四次拡張工事のうち第二期工事竣工認可
- 1956年(昭和31年) 東京都砂町工事着工(自社埋立)
出光興産徳山製油所工事着工
- 1959年(昭和34年) 東京本部開設
有明人工島築島工事着工
- 1961年(昭和36年) 当社株式、東京証券取引所第二部に上場
- 1962年(昭和37年) 当社株式、東京証券取引所第一部に上場
- 1965年(昭和40年) 若築建設株式会社と社名変更
- 1969年(昭和44年) 日本建設業団体連合会に入会
- 1972年(昭和47年) 川田工業株式会社を合併
- 1976年(昭和51年) スエズ浚渫工事着工
本四連絡橋大鳴門橋下部工事着工
福岡市地下鉄工事着工
- 1978年(昭和53年) 小山スーパー建築工事着工
- 1980年(昭和55年) 千葉県市原市にて第一回住宅分譲

若松港築港関連施設群 土木学会選奨土木遺産に認定

令和元年度の土木学会選奨土木遺産に「若松港築港関連施設群」が認定されました。

選奨土木遺産制度は、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として平成12年度に創設された制度で、近代(幕末から昭和20年代)に完成した土木構造物が対象となります。

今回認定の対象となった構造物は、当社が建設した石積護岸を中心とした構造物群であり、当社所有の「出入船舶見張り所跡」および「測量基準点」も含まれております。



若松港築港関連施設群



東海岸係船護岸



東海岸通護岸



若松南海岸物揚場



弁財天上陸場



出入船舶見張り所跡



測量基準点



1956年 出光興産徳山製油所棧橋
およびドルフィン工事



1990年 木屋瀬土地地区画整理事業



1992年 矢那川ダム(千葉県)



2005年 石巻地区広域行政事務組合
消防本部庁舎(宮城県)



2015年 技術研究所を再整備

- 1983年(昭和58年) 新社章制定
- 1985年(昭和60年) 着座式捨石均し工法開発
羽田沖地盤改良工事着工
- 1986年(昭和61年) 関西空港地盤改良3工区護岸築造工事着工

平成

- 1989年(平成元年) ドル建銀行保証付分離型新株引受権付
社債発行(1億米ドル)
東京湾横断道路木更津人工島西工事着工
- 1990年(平成2年) 木屋瀬土地地区画整理事業着工
創立100周年
- 1992年(平成4年) 矢那川ダム本体建設工事着工
- 1995年(平成7年) 神戸新港西災害復旧工事着工
- 1997年(平成9年) わかちく史料館開設
ISO9001(品質マネジメントシステム)認証取得
- 1999年(平成11年) 若松ライフ研究所設立
- 2000年(平成12年) 中部国際空港護岸工事着工
プレーシングポンツーン方式による沈埋函据付
(衣浦港中央ふ頭地区道路沈埋部築造工事)
- 2001年(平成13年) 東ティモール国ディリ港航路標識灯および
防舷施設緊急復旧工事着工
- 2002年(平成14年) 福岡県宗像市でディメンション赤間駅前
(マンション)分譲

- 2003年(平成15年) ISO14001(環境マネジメントシステム)認証取得
- 2005年(平成17年) 東京国際空港D滑走路建設工事外工事着工
スマトラ沖大地震による津波災害復旧工事着工
(スリランカ国、モルディブ国にて)
ニカラグア国サン・フアン・デル・スル漁港施設改善工事着工
PFI事業への参画
(石巻地区広域行政事務組合消防本部(石巻消防署併設)庁舎移転整備事業)
- 2006年(平成18年) 北九州港みなとまちづくり大賞の受賞
- 2009年(平成21年) OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)認証取得
- 2011年(平成23年) 災害廃棄物処理業務(石巻ブロック)受託
- 2012年(平成24年) 青い羽根募金活動による名誉総裁賞の受賞
- 2013年(平成25年) 浚渫グラブバケット角度制御装置の開発
- 2014年(平成26年) グラブ浚渫船兼全旋回式起重機船「若鷲丸」の建造
いなげの浜美化運動で緑綬褒状を拝受
- 2015年(平成27年) 技術研究所を再整備
- 2016年(平成28年) サモア独立国アピア港安全向上計画工事着工
- 2017年(平成29年) 「くるみん」の認定
- 2018年(平成30年) 第1回「i-Construction大賞」優秀賞を受賞
青い羽根募金活動による名誉総裁賞の受賞
- 2019年(平成31年) 第4回けんせつ小町活躍推進表彰特別賞の受賞
若松港築港関連施設群の土木学会「選奨土木遺産」認定

創業130周年事業をスタートしました

当社は、2020年5月23日に創業130周年を迎えるにあたり、ロゴマークやメッセージを制作しました。新しい時代の幕開けに、新しい若築建設株式会社がスタートします。

ロゴには、オフィシャルマークとコミュニケーションマークがあり、オフィシャルマークは、港の開発からはじまった当社が130年という節目を更なる大海原へ向かうという気持ちを、波で象った「W」の文字で表現しました。また、コミュニケーションマークには、マスコットキャラクターかものはしの「わっくん」を使用しました。

メッセージには、それぞれ130年の歴史を未来に向けてつなげていく思いが込められています。

｜ オフィシャルマーク



｜ コミュニケーションマーク



｜ オフィシャルメッセージ

風を超えていけ。

From Sea, To the Future.
～ 始まりは海。行き先は未来。～

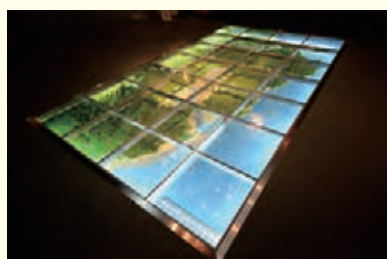
｜ 創業130周年の歴史を伝える、わかちく史料館

わかちく史料館は、1890年に若松で生まれた当社が、明治から令和へと130年の長きにわたり地域の皆様にお世話になったことへの感謝と、洞海湾建設をはじめとする若松の歴史を伝えたいという願いを込めて運営しております。館内には当社保存の資料だけでなく、皆様から寄せられた多数の貴重な資料を展示しています。毎年の入場者数は1万名を超え、広く地域の皆様に愛される存在となっております。2月には、福岡市の小学5年生(120名)の社会科の授業の一環として、当史料館の見学も行われました。

当社は今後も建設という仕事を通じ、社会に貢献するとともに、当史料館を通じた地域交流を目指してまいります。



わかちく史料館 館内の様子



2018年度 完成工事紹介

海上土木

陸上土木

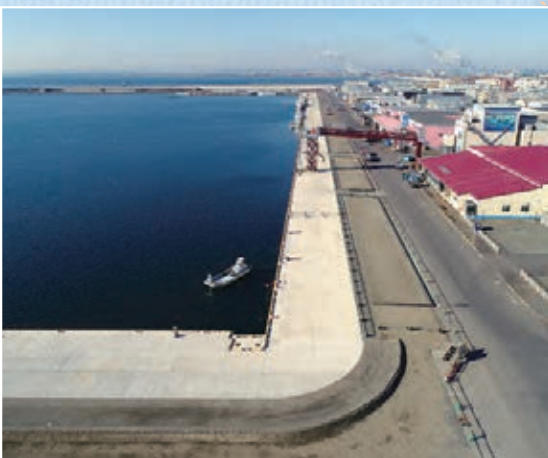
建築



12 宇部港本港地区航路(-13m)浚渫工事(その2)

発注者 国土交通省中国地方整備局

宇部港本港地区において入港船舶の大型化に対応した岸壁一体の航路・泊地の整備が行われる中、航路、泊地の増深(-13m)をICTを活用して施工しました。



1 石巻漁港-6.0m岸壁外災害復旧(その2) 工事

発注者 宮城県

石巻漁港の岸壁は、東日本大震災による津波で被災したため、4年の歳月を掛け約2,000mの復旧工事を行いました。



2 小名浜港東港地区岸壁(-16m) (耐震) 本体工事

発注者 国土交通省東北地方整備局

大型貨物船に対応した大水深の岸壁を築造するもので、本工事では耐震化される水深16mの岸壁の鋼管杭および被覆・根固を施工しました。



3 にかほ第二風力発電所

発注者 株式会社ジェイウインドにかほ

本発電所は、大型の風力発電機(2.3MW)を秋田県にかほ市、島山北側山麓、標高約500mの仁賀保高原に18基設置するものであり、当社は風車基礎工事を実施しました。



4 庄内遊佐太陽光発電所建設工事

【発注者】 株式会社 庄内自然エネルギー発電

山形県飽海郡遊佐町において、敷地面積31haの太陽光発電所を建設するために掘削・盛土・排水整備および仮設道路の造成、約6万6千枚のパネルを設置しました。



5 金花山鋼製棧道工事

【発注者】 国土交通省関東地方整備局

計画中のハツ場ダムに水没する関係住民の方々の移転先である長野原町大字川原湯地先にある打越代替地と上湯原代替地を結ぶ全長約2kmの町道の内、鋼製棧道区間(延長約119m)を施工しました。



6 新港ふ頭9号岸壁整備工事(その12・上部工)

【発注者】 横浜市

横浜港新港地区岸壁の撤去工、護岸工、上部工、裏込・裏埋工、PC桁工、付属工及び仮設工を施工しました。



7 横浜市金沢区瀬戸2丁目計画新築工事

【発注者】 伊藤忠都市開発株式会社

本工事は、RC造10階建ての分譲マンションで、総戸数は72戸、テナントが2店舗あり、海が眼前に広がるロケーションを最大限に活かした計画となっています。



8 敦賀港(鞠山南地区)岸壁(-14m)本体工事

【発注者】 国土交通省北陸地方整備局

ケーソン(水中構造物)ができるまで
～敦賀港-14m岸壁本体工事～(動画)



9 名二環かの里4高架橋南下部工事

【発注者】 国土交通省中部地方整備局

名古屋環状2号線事業は、名古屋都市圏の主要幹線道路のひとつとして、交通分散による都市内交通の渋滞緩和、アクセス強化などを目的としています。本工事では、下部工1基(P79)を構築しました。



10 和歌山下津港北港地区防波堤(南)本体工事

【発注者】 国土交通省近畿地方整備局

エネルギー港湾として整備が進められており、本工事では防波堤(南)の本体工および日高港岸壁(-12m)の本体工を施工しました。



11 東予港中央地区岸壁(-7.5m)築造工事(その2)

【発注者】 国土交通省四国地方整備局

船舶の大型化に対応した、耐震強化岸壁を有する複合一貫輸送ターミナルを整備するもので、本工事では耐震強化岸壁の上部工、裏込・裏埋工を施工しました。



13 博多港(アイランドシティ地区)道路(IP12~IP16)橋梁下部工事

発注者 国土交通省九州地方整備局

博多港(アイランドシティ地区)道路(IP12~IP16)橋梁下部工の仮設工、基礎工、橋梁工、構造物撤去工および函渠工を施工しました。

14 九州新幹線(西九州)、嬉野温泉駅高架橋他工事

発注者 鉄道建設・運輸施設整備支援機構

橋梁518m、高架橋535m、駅部高架橋195m、深礎4基、保守用斜路2箇所の新設1,248mを施工しました。

15 いすゞ自動車九州株式会社宮崎支店新築工事

発注者 いすゞ自動車販売株式会社

老朽化した現存する工場の建て替え計画として、近くに有料道路もあり交通の便が良く、整備工場としての利用者拡大に期待がもてる宮崎港に接する場所において、移転新築工事を行いました。



16 霧島市福山町佳例川発電所太陽光発電施設新設工事

発注者 エフビットコミュニケーションズ株式会社

鹿児島県霧島市内に位置する山間部でのメガソーラー事業(出力:約8MW)の内、太陽光発電所新設のための大型造成工事です。

17 北熊本(28補)広報館新設建築その他工事

発注者 防衛省九州防衛局

熊本市北部に所在する北熊本駐屯地は、第8師団司令部が駐屯する陸上自衛隊の駐屯地です。本事業は、熊本震災の影響により使用不能となった既存展示館と大講堂を一つに集約し、将来増加する展示品ならびに部隊音楽隊の演奏会が行なえる拠点駐屯地の施設整備事業です。



写真提供：内閣府沖縄総合事務局

18 VUTEQ福岡工場新築工事

発注者 ビューテック株式会社

交通の便が良く、十分なストックを確保できる自動車用ガラスの加工工場の整備を求められ、その中で当社は、各許認可取得、工場敷地の造成設計・造成工事、新工場の建築設計・建築工事を実施しました。

19 那覇空港滑走路増設4工区埋立工事

発注者 内閣府沖縄総合事務局

滑走路を新設してライフラインの充実を図ることを目的としており、本工事は4工区(滑走路北側)の陸上地盤改良工、埋立工、本体工、上部工、裏込・裏埋工および雑工を行いました。

サモア独立国での港湾工事が完成

アピア港全景



2016年6月より施工していましたサモアでの「アピア港安全向上計画」が完成しました。2018年6月27日には、現地で竣工式が開かれ、同国の政府関係者や青木・駐サモア大使をはじめ、当社の工事に携わった職員らが出席し、プロジェクトの完成を祝いました。

「アピア港安全向上計画」は、アピア港を出入りする船舶の港内作業と旅客の安全性向上を目的に、港湾施設の改修やタグボートの更新などを実施しました。

工事内容は延長137mの岸壁新設やコンテナヤードの新設(1,970㎡)や補修(舗装部分約1,100㎡、栈橋スラブ部分約5,400㎡)などになります。



アピア港にクルーズ船が入港

サモア独立国の地図



竣工式の様子





けんせつ小町 ～女性技術者の活躍～

※「けんせつ小町」は建設業で働くすべての女性の愛称です。



第4回けんせつ小町活躍推進表彰 特別賞の受賞について

当社は、一般社団法人日本建設業連合会（日建連）が、建設業界における女性の活躍を推進するため、日建連会員企業の取組みを顕彰することによって、担い手の確保・ダイバーシティの推進・建設業のイメージアップに資することを目的に創設した、「けんせつ小町活躍推進表彰」の第4回表彰において特別賞を受賞しました。

当社が国土交通省中部地方整備局より受注しました「平成29年度 名二環春田6高架橋中下部工事」において、女性技術者の越智ひとみが現場代理人従事中に懐妊しましたが、本人の働く意志・希望、および発注者のご理解・ご支援を賜り、当社がサポート体制を整え、妊婦であっても現場管理が出来る工夫を行いました。その結果、現場代理人の職務を継続し、工事完成まで従事することができました。今回の受賞は、このような取り組みについて、ご評価いただいたものです。

当社では、事務系のみならず、総合職技術系の女性社員も年々増加し、女性の活躍の場が広がっており、2017年5月30日には、次世代育成支援対策推進法第13条に基づく基準に適合し、厚生労働大臣より「子育てサポート企業」（くるみん）として認定を受けました。



当社は今後も、男性・女性を問わずその能力を発揮し、子育てと仕事の両立ができる職場環境の整備を進めてまいります。



けんせつ小町委員会 新井英雄委員長様と



工事完成写真



参考資料

越智ひとみ
プレゼンテーション資料

<https://www.wakachiku.co.jp/csr/csr2019/komachi-report.pdf>



越智ひとみ
第4回けんせつ小町活躍推進表彰
受賞内容（日本建設業連合会HPより）

<https://www.nikkenren.com/komachi/pdf/award/2018/10.pdf>



「けんせつ小町」URL
（日本建設業連合会HPより）

<https://www.nikkenren.com/komachi/index.html>





Interview

妊婦が技術者として現場で働き、 妊娠・出産を通して感じたこと

名古屋支店
名二環春田6高架橋中下部工事作業所

越智ひとみ (2016年入社)

◇ ご出産おめでとうございます。お子さまの成長状況、育児はいかがですか。

高齢出産だったのですが、母子共に健康です。産まれて1ヶ月は、3時間ごとに泣いて大変でしたが、徐々に寝る時間も長くなりました。母も手伝いに来てくれて助かりました。4ヶ月検診でも問題なく、1日2回、離乳食をたくさん食べてくれます。

◇ 越智さんは女性技術者として現場で働いていたときに妊娠されましたが、その時はどのようなお気持ちでしたか。

突然のことで戸惑いもありましたが、うれしかったです。ただ、現場代理人という立場だったので、会社に妊娠を伝えたら、現場代理人を降ろされるのかな、という不安がありました。それでもきちんと伝えなければいけないので、最初に土木部長に伝え、土木部長から支店長、所長に話して頂きました。予想とは違い、皆さんが「おめでとう」と言って下さったので、とてもうれしかったです。そして、皆さんが「妊娠している状況でも安心して働ける状況を整えるから、続けられるか?」と言って下さったので、働き続けたい意志は固まりました。

幸いいつも軽く、仕事に支障をきたすこともありませんでした。夏を過ぎた頃にはお腹も大きくなり、シートベルトを締めると、お腹を蹴っていましたね(笑)。

発注者は「国土交通省 中部地方整備局 愛知県道事務所」で、現場で働く女性を積極的に受け入れて下さったことも、大きかったです。

◇ 会社は越智さんの「働きながら子どもを産みたい」という意志を尊重してくれたのですね。

はい、会社は私の意志を尊重し、妊婦でも施工管理が出来る仕組みを考えて、安全が確保できる状況で、現場代理人を続けて良いと判断していただきました。とてもうれしく、きめ細やかに配慮して頂き、ありがたかったです。

◇ 越智さんの「働きながら産みたい」という強い意志は、仕事に対するどのような考えから生まれたのですか。

現場代理人を任せてもらった以上は、最後まで成し遂げたいという気持ちは強かったです。責任を果たしたいという想いと、技術者として構築物の完成を見届けたいという想いもありました。

◇ 越智さんは、コンクリート診断士の資格は持っていましたが、1級土木施工管理技士の資格も取られたのですよね。

去年の1月に合格しました。



◇ 作業現場という特殊な環境ですが、会社は具体的にはどのような対応を行ったのですか。

私が妊婦として現場代理人の仕事を全うできるように、補助の方を付けてくれたことが一番大きかったです。ベテランの男性技術者がいろいろな面でフォローしてくれました。安全環境部は、私の妊娠が判明してすぐに、妊娠中の転倒事故防止策として、現場内の転倒危険箇所を洗い出し、改善のアドバイスを頂きました。また、就業規則の指導を受け、重い物を持つてはいけない、足場へ登ってはいけないなどを教わりました。

現場においても、通常の安全管理に加えて、「妊婦に於ける安全管理」も実践して頂きました。例えば段差につまずかないように、段差シートを付けたり、ICT活用で、クレーン作業監視などのため、足場最上階にWEBカメラを設置し、現場事務所で作業状況を監視し、安全指導できるようにしてくれました。

また、支店管理部からは、産休・育休に関する社則の説明を受け、具体的な出産手当金や育児休業給付金などを教えてもらいました。その他、検診などで中抜けなどするときは有休処理をしなくても良いこと、出産予定日に基づき、いつから産休に入るかななどの説明を受けました。

また、妊娠・出産を経験した本社女性社員とのホットラインを開設して頂き、経験者からのアドバイスを頂きました。今もLINEで相談しています。

その他で現場代理人の立場で、ご自身で工夫したことや、次に繋がるように試みたことはありますか。

具体的には、

- ・社用車にマタニティマークを貼付
- ・マタニティ作業服を着用
- ・部屋を増設し、リクライニングチェアを設置
- ・足場の一部では、注意喚起の音声ガイダンスを私の声で吹き込んで人感センサーで感知して流す

などを行いました。

そのような中で日本建設業連合会の「けんせつ小町・チーム“愛”」の活動に参加されましたね。どのような活動を行ったのでしょうか。

「けんせつ小町・チーム“愛”」の活動に参加させて頂いたことで、出産・育児経験のある方々に現場の改善点を教えて頂いたり、ICTを駆使した現場を見学したりなど、良い経験が出来ました。

また国土交通省主催の「建設技術フェア2018in中部 学生交流ひろば」で「けんせつ小町・チーム“愛”」としてブース出展し、「学生交流ひろば」にて未来の女性技術者に対して、様々な女子学生の疑問に答え、女性技術者の入職支援のアシストを行いました。

それらの活動が日本建設業連合会に認められ、「第4回けんせつ小町活躍推進表彰」を受賞されましたね。当社では初の受賞です。おめでとうございます。

女性技術者として、これまでできなかったこと、やろうと思ってもできなかったことを「チーム“愛”」として、「一歩前」に進めたことに対しての表彰だと思います。「妊娠中に現場代理人として働いている事例は珍しい」とのことで、その工夫や実践したことに対し、発表の場を設けて頂きました。そこでは、男性・女性問わず頑張ったことを評価されたと思いますので、とてもうれしかったです。

話は変わりますが、お子さまは6ヶ月とのこと。母として、お子さまを産む喜び、育児の喜び、ご苦労もあると思いますが、その辺りをお聞かせ頂けますか。



母として、子どもがこんなに可愛いものだとは思いませんでした。毎日毎日成長の変化が感じられて、少しずついろいろなことができるようになってきて、とてもうれしいです。

首も据わっていない状態で生まれてきて、いろいろなことをやろうとして頑張っている姿が健気で、子どもを見習って、私も一生懸命頑張ろうと思いました。それと会社のお陰で、何の心配もなく働けたことは、とてもありがたかったです。子どもを育てながらの復職を目指したいと思います。

職場復帰まではどのようなスケジュールですか。

1歳になる4月に保育園に入れて、職場復帰できればと考えています。子どもが成長したらまた現場に戻りたい気持ちがあります。

いずれは現場の所長ですね。

それを目指して、頑張っていきたいですね(笑)。

技術職の女性で結婚されている方もいて、将来的に出産を希望する方もいらっしゃると思いますが、子育てと仕事の両立を目指す方へのアドバイスがあれば教えてください。

「自分独りで頑張ろう」という気持ちはいずれは限界が来ますが、子どものためには「もっと頑張ろう」という気持ちが持続します。子どもが、自分の命以上に大切な存在になるものです。独身の頃はさんざん言われ続けたのですが、全然響かなかったですね。変れば変わるものです。現場で働く作業員の方にも、同じように大切な家族がいて一人だけの命ではない、それを考えると自分も今以上にしっかり安全管理を行わなければならないと思いました。当たり前の安全管理の積み重ねの大切さを実感しています。

お子さんが産まれて、人生観や、仕事に対する考え方に変化はありましたか。

独身の頃は、子どもの泣き声もきらいな位苦手だったのですが、180度変わりましたね。

妊娠してから、産婦人科で赤ちゃんが泣いていても、微笑ましく感じるようになりました。(妊娠は) ないかと思っていたので(笑)。

今は子育てから「人生の修行」をさせてもらっています。「命の重み」をつくづく感じています。そのような存在があると、強くなれるものですね。

働き方改革 ～作業所での週休2日定着に向けて～

平成30年度伊万里港(七ツ島地区)道路(橋梁下部工)工事

【工事場所】 佐賀県伊万里市 【工期】 平成30年7月13日～令和元年9月30日(15ヶ月) 【発注者】 国土交通省九州地方整備局



統括所長
下村 泰史

週休2日を取得するための工夫

計画工程を立案する際、いろいろな問題を想定し、着手前に解決できるよう発注者・協力業者と詳細な協議、打合せを行っています。作業においては作業効率の低下を補てんするため、作業員の体調を考慮し、近隣への影響がない範囲で早出・残業を行いました。書類作成業務については、早出・残業をすることで足りない時間をカバーしました。

有意義な
休日の
過ごし方

子供(中学生)がクラブ活動でサッカーをしているため、休日に試合があるときは、家内と応援に行ったりしています。休日が1日しかない、帰省するだけで終わってしまいがちですが、連休を利用することで家族と過ごす時間が増えました。



監理技術者
片山 幸明

週休2日を取得するための工夫

土曜日に仕事をしないように、平日の業務を工夫しています。どの現場も同じですが、より工事が円滑に進むように作業をイメージし、職長や先輩と相談しながら現場を運営するように心掛けています。また、内業をする時間を確保するため、交代で事務所に帰るように工夫しました。今後はさらに時短を推進するため、便利なソフトを積極的に取り入れていきたいです。

有意義な
休日の
過ごし方

転勤が多いので、赴任先を観光することが趣味になっています。先日は唐津市の鏡山へドライブしてきました。(後ろに写っているのは虹の松原です) 連休が取れるため、地元の友達と会う機会も増えました。安心して深酒できるのも、連休が取得できる醍醐味だと思います。



担当技術者
新本 哲也

週休2日を取得するための工夫

日中でも時間があるときは内業をするように心掛けています。また、明日やるべきことを明確にし、それに向けた準備を最優先にすることで、平日も残業時間をできるだけ減らすように工夫しています。作業所内でのコミュニケーションが取りやすく、仕事がしやすい環境のため、今までよくしていた「付き合い残業」がなくなりました。これからも仕事がしやすい雰囲気作りを心掛けていきたいと思っています。

有意義な
休日の
過ごし方

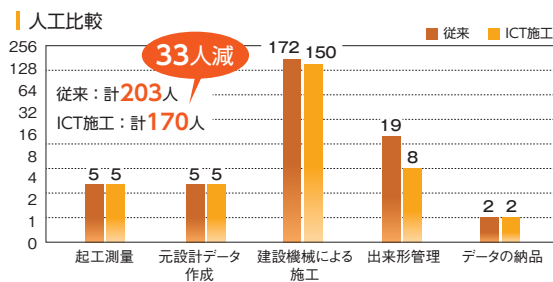
家族で出かける機会が増えたように思います。幼い娘とデートする時間はとても貴重だと改めて感じました。これからも家族との時間を大切に、皆さんの思い出を作りたいと思います。



H30荒川左岸堀切地区浚渫工事

週休2日制モデル工事

浚渫土砂は、現場から約60km離れた横須賀港まで海上運搬する必要があるため、天候(特に風)により海上運搬できない日が週に1〜2度ほど想定されました。そのため、工程管理は海上運搬を最優先とし、強風予報時は予め週2日、休工日とすることで4週8休を達成することができました。



有意義な 休日の 過ごし方

連休を利用し平塚の実家に帰省しました。まだ1才5ヶ月の息子はシャボン玉にも興味津々です。祖父母にも孫の顔を見せることができ有意義な時間を過ごせました。



現場代理人
宮田 正昭

平成30年度 138号BP須走地区北道路建設工事

週休2日を取得するための工夫

地盤改良工でパワーブレンダー工法が採用されていましたが、機械や人員の空きが少なく施工時期に制約があったため、特殊な機械を使用しないで施工可能な安定処理工法に設計変更しました。これにより、プラント設置や重建設機械の搬入組立解体に係る工程を短縮し、施工時期の制約を受けることなく工程管理できました。

作業所長 越智 聖剛

作業終了後に行っていた補強土壁の進捗管理図表作成や材料搬入記録などを、現場にいる間にiPadを用いて、時間の有効活用を積極的に行いました。また、一人で補強土壁の位置だしや確認作業をできるように工夫しました。

現場代理人 榊原 宏明

有意義な 休日の 過ごし方

子供が生まれて2か月が経ちました。現場事務所から自宅までは約30km。毎日子育てに奮闘している家内に、休日くらいはゆっくりしてもらえよう率先して家事育児を頑張っています。



現場代理人
榊原 宏明

平成30年度河津下田道路河津にランプ橋西下部工事

週休2日を取得するための工夫

今回の工事は発注者指定型であり、完全週休2日です。作業員は、遠方より宿泊で来ているので、休みが2日しか無いと移動であまり休みが取れません。

そこで各週で金曜日を休みにして3連休にし、翌週は土曜日でも作業するように工夫しています。

有意義な 休日の 過ごし方

現在単身赴任中のため、休日は帰省し、小学6年生になる娘のソフトボール練習に汗を流しています。



統括所長
角田 哲也

「働き方改革」推進への取り組み

いきいき職場の創造

社員が心身ともに元気で、いきいきと個々の能力を発揮し、効率的に、楽しく働ける職場環境の整備を目指し、会社・労働組合・健康保険組合が協調して、「働き方改革」の実現を目指し活動しています。具体的には、育児・介護のための休業制度や、有給休暇取得の積極的促進、週末2日の実現に向けた環境整備、ICT活用による業務の効率化、社員の心身の健康サポートなど、ワークライフバランスを促進し、働きやすく、働きがいのある職場環境づくりに努めています。

また、新入社員の集合教育や、公的資格取得奨励の実施、自己申告制度、目標管理制度など、会社は社員ひとりひとりの適性や、家族の事情に配慮し、安心して、意欲を持って仕事に取り組める仕組みを整備しています。



社員の語らい

障がい者の雇用と活躍

障がいをもつ方が、障がいのない方と同じ職場で、その能力と適性に応じて活躍できることをめざし、働きやすい環境を整え、障がい者の雇用促進をはかっています。

2019年6月時点で、障がい者雇用率は2.88%（法定雇用率2.2%）です。

仕事と、子育て・介護の両立を支援する

仕事と子育て・介護の両立が可能な職場は、社員が安心して個々の能力を最大限に発揮でき、仕事の効率を高めることができますと考えます。

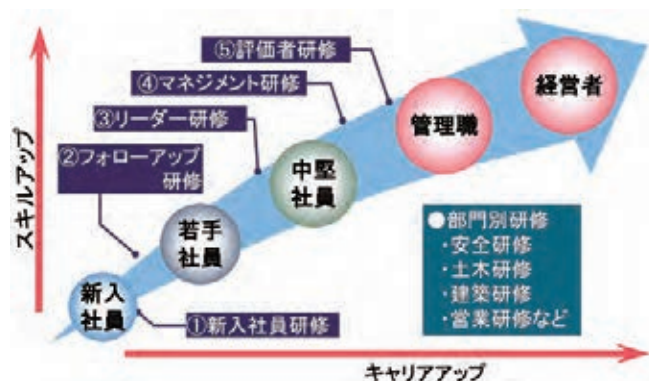
また、ワークライフバランスをより進めることで、「生活の質の向上」と、「仕事の高効率化」の両立をはかっていきたいと考えます。



当社は、次世代育成支援対策推進法に基づき、2017年に東京労働局より基準適合一般事業主認定を受け、次世代認定マーク「くるみん」を取得しています

わかちく社員教育プロジェクト『はぐくみ』

個々の社員が日々目標を持って業務に従事し、成長しながらキャリアを築いていけるよう、わかちく社員教育プロジェクト『はぐくみ』を立ち上げました。効果的な社員教育により若手社員の持続的な成長を促すため、以下の項目を実施します。



キャリアパスと研修ロードマップ

1. 明確なキャリアプランの提示

従来、現場技術者に対してのみ設定していた階層別の必要スキルを、職種別で明確にします。あわせて会社が期待するキャリアパスも提示することで、スキルアップへの意欲を高め自律的な成長を促します。

2. 階層別研修、部門別研修の充実

若手社員の前向きな意欲に応えられるよう、キャリアパスを踏まえた体系的かつ効率的な階層別研修を計画し、研修ロードマップを示します。働き方が多様化していることを踏まえ、様々なキャリアに対応した部門別研修も実施します。

3. クラウド型教育システムの導入

全国各地の現場職員に効率的な教育が実施できるよう、クラウドシステムを利用した教育システムを導入しました。実際に、一級土木施工管理技士試験の合格率が向上するなど成果が上がっています。

健康の増進

社員とその家族の幸せと、活力ある職場づくりには、心身ともに健康であることが重要であると考えます。そのために当社は、若築建設健康保険組合と協力して、様々な健康増進策に取り組んでいます。

若築建設健康保険組合では、病気の早期発見・早期治療に役立つ特定健診や、健康増進に役立つ特定保健指導を実施し、人間ドック補助金支給、インフルエンザ予防接種補助金支給などを行っています。また、積極的な健康増進のために、ウォーキング大会、体育奨励事業など、社員とその家族のための様々な健康づくりを支援しています。

メンタルヘルスにつきましても、医師や専門家によるカウンセリング体制を整えて、社員とその家族のメンタルヘルスの増進と、心の問題への早期対応に努めています。



PepUpの画面

また、個人向けの健康情報のマイページ「PepUp(ペップアップ)」を公開し、個人の健康状態に合わせた情報配信を主に行っています。

総務人事部では、ストレスチェック制度を実施しています。これにより、メンタル疾患の発生を未然に防ぎ、ストレスの高い部門については、仕事の質と量に見合った人員配置を行い、職場環境の改善、長時間労働等を是正し、働きやすい職場づくりを目指しています。



ウォーキング大会

若築建設労働組合

今年度の労働組合のスローガンは「結 志(ゆうし)～ 組合員一人一人の知恵と力を集結させ、働きがいのある職場環境づくりに邁進する～」を掲げて、働きがいのある職場環境の実現に向け、より魅力的な会社となるよう組合として努めています。その重点活動内容は、①安定した生活の維持のための賃金交渉 ②働きがい向上のための待遇改善 ③仕事と生活の調和(ワークライフバランス)を実現するため、休暇取得促進、時短、メンタルヘルスケアの促進 ④会社側と意見交換・情報伝達の機会を増やし、現状の相互理解・把握に努め労使にて共通認識を持つと共に、業務改善に向けた積極的な提案の実施 ⑤同業他社労働組合と、労働条件の改善に向けた情報交換の実施 ⑥人的交流を活発にするために、支部の枠を越えたレクリエーション活動や組合研修の開催、等です。

積極的な労働組合活動により、会社に対し、「働き方改革」に資する積極的な提言を行い、社員全員が働きやすく、モチベーションを維持できる職場環境づくりに努めて参ります。



労使懇談会



技術研究所にて



ソフトボール大会



担い手確保の取り組み

インターンシップ

当社は、大学生・大学院生・高等専門学校生を対象としたインターンシップを、全国各地の現場において実施しています。2018年8月～9月には、約35名の学生が就業体験を行いました。

当社のインターンシップを志望した学生は、「海洋土木工事に興味があった」「施工管理の仕事はイメージしにくい」「女性が活躍している現場を体験したい」などを理由にあげた方が多数いました。

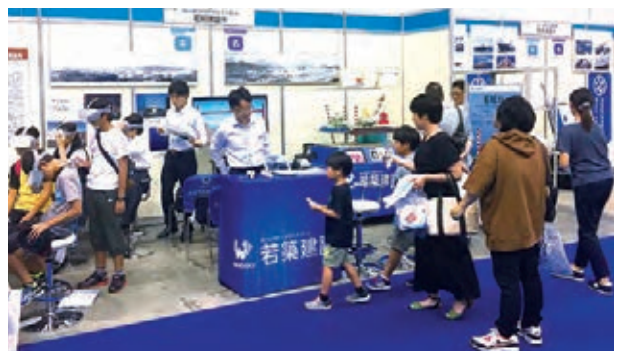
就業体験を終えた学生からは、「将来は必ず施工管理の仕事がしたい」と感想をいただきました。



北九州ゆめみらいワーク2019へ出展

「北九州ゆめみらいワーク」は、早い段階から仕事や進学について考え、地元の魅力を知るイベントとして多くの地元企業や大学などが出展し、職業体験や社会人との交流などを通じて、若者の職業観の醸成や地元企業・大学等などへの理解促進、将来の地元就職につなげることを目指す、キャリア教育イベントです。

当社は、2019年8月23日～24日に開催されました北九州ゆめみらいワーク2019へ出展し、建設業の魅力をアピールしました。



出展内容

- ①当社のグラブ浚渫船「若鷲丸」の模型を展示し、浚渫とは何かを体験してもらいました。
- ②当社のグラブ浚渫船「若鷲丸」のビデオを上映し、船に搭載されている技術を紹介しました。
- ③創業時の洞海湾開発について、パネル・写真などを使用して説明しました。
- ④当社の工事現場をVR（バーチャルリアリティ）で再現して仮想体験してもらいました。



安全マネジメントシステム

安全衛生基本方針

「効果あるリスクアセスメントを実践する」

- 職務を認識し、安全施工サイクルを確実に廻す
- 労働安全衛生関係法令及び社内基準を遵守する

継続的改善に繋げる安全施工サイクル(PDCA)の概念図



労働安全衛生マネジメントシステム

「人命尊重」の基本理念や「安全は企業活動の根幹」とするモットーのもと、当社および協力会社の従業員とその家族の皆さまに安心していただけるよう、安全で快適な職場づくりにつとめています。

当社は労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS18001)を運用し、現在、全支店の土木部門が認証を取得しています。

今後はより有効なシステムとなるよう、安全衛生の国際規格であるISO45001に準拠して一部修正し、労働安全衛生に対する社員および協力会社の意識のさらなる向上をはかり、全社一体となって労働災害絶滅への取り組みを進めていきます。

安全環境本部の設置

当社は本社に「安全環境本部」を設置しています。その目的は、①当社の安全文化を醸成し、事故災害を防止していくこと

で企業としての責任を果たし、それをもってお客様の信頼を得ること、②現状に危機感を持ち、問題点を共有し、企業としてこれに対応するため、社内における「安全部門の充実と役割の強化」を図ることです。

また、安全環境本部を設置することにより以下を目指しています。

- ①存在感を発揮する安全環境部として指導力を向上する
- ②従業員の安全管理知識・技能・意識の向上により協力会社を効果的に指導する
- ③トップから従業員、協力業者に至るまでの安全意識の向上(安全文化の醸成)を図る

また、工事現場における統括管理および本社、支店、営業所等の工事現場への的確な指導・援助によって十分な安全衛生活動を推進するため、統括安全衛生責任者および元方安全衛生管理者の職務を行う者の安全管理に対する姿勢および行動を評価し、人事考課に反映させています。

安全マネジメントシステム

危機管理体制の確立

受注した全工事について「危機管理体制」を確立することとしています。具体的には、①全工事の「リスク」の洗い出しと緊急対策の検討、②緊急対策の発注者等との協議、③緊急体制の構築、を行い、④協力会社への周知指導、⑤緊急対策の事前訓練の実施、⑥支店土木部、建築部及び安全環境部との連携による「危機管理パトロール」を実施していきます。

また、「リスク」が公衆等へ及ぼす影響が大きいと思われる工事を「公衆災害対応重要工事」として選定し、本社土木部、建築部は安全環境部本部と連携して、「危機管理パトロール」を実施しています。

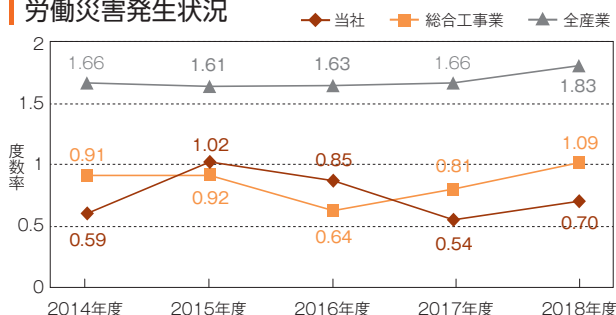
労働災害絶滅への取り組み

災害防止重点項目は、過去20年以上にわたって蓄積してきた当社の災害統計をもとにして設定しています。

2018年度は『墜落・転落災害』『第三者災害(特に交通事故)』『建設機械に起因する災害』の防止を災害防止重点項目に設定し、安全衛生管理に取り組みました。

今後も、安全衛生基本方針に基づいて、「災害ゼロ」から「危険ゼロ」をめざし、さらに充実した安全衛生管理に取り組んでいきます。

労働災害発生状況



安全衛生教育

本・支店勤務者も含めた技術系職員を対象に2018年度は全国40会場に分けて安全衛生教育を実施し対象者全員の701名が受講しました。教育では社内ルールの徹底や法改正への対応などを中心に講義し、テストにて理解度を確認しました。



フルハーネス型墜落制止用器具の使用教育

労働安全衛生法の改正に伴い、建設現場において墜落防止のために装着する安全帯が「フルハーネス型の墜落制止用器具」に変更され、6.75mを超える高所作業での使用が義務付けられました。また、フルハーネス型を使用するためには特別教育が必要になりました。

当社では法の施行に先立ち、建設現場に従事する現場職員に限らず、安全パトロールなど建設現場に立ち入る可能性のある役職員全てに特別教育を実施しています。



建設機械災害防止運動

建設機械災害を防止するため「若築3・3・3運動」や「グーパー運動」「誘導なしでバックしない運動」を推進しています。

特に「若築3・3・3運動」はクレーンによる吊り荷地切り時の接触やはさまれ事故などの防止に重点を置いた運動としてすべての作業所に徹底し、災害防止につとめています。



安全パトロール

社長、支店長などによる役員パトロール、安全環境部および協力会社との合同パトロールなどを定期的の実施し、労働災害防止の指導と安全意識の高揚をはかっています。また、女性社員の視点によるパトロールなども実施しています。



社長現場パトロール



現場職員とのコミュニケーション

安全表彰

当社が実施する事故災害防止のための安全活動に対し、発注者や関係団体より表彰状をいただきました。

(主な表彰)

- 国土交通省 近畿地方整備局 局長
- 国土交通省 中国地方整備局 局長
- 中日本高速道路株式会社 東京支社工事安全協議会 会長
- 日本コークス工業株式会社 北九州事業所 所長
- 建設業労働災害防止協会東京支部 支部長



国土交通省 近畿地方整備局



国土交通省 中国地方整備局

「あんぜんプロジェクト」への参加

厚生労働省が進める「労働災害のない日本を目指して、働く方の安全に一生懸命に取り組み「働く人」「企業」「家族」が元気になる職場を創るプロジェクト」です。当社もこのプロジェクトに参加して安全対策に積極的に取り組み、活動状況や災害発生状況を公開しています。



品質の向上

品質と環境を統合したマネジメントシステムの運用により、品質の向上とお客様の満足度の向上を目指すとともに、積極的な環境保全活動を行っています。

品質環境方針

若築建設は、国内外における社会基盤施設の建設活動を通して、社会の発展に貢献します。また、経営資源を効果的に活用して、人材育成や技術力の向上に積極的に取り組むとともに、業務改善を常に心がけ、社会からの信頼に応えてまいります。

法令の順守

法令、その他の社会的規範等の順守を徹底し、高い倫理観のもとに良識ある企業活動を実践します。

お客様の信頼確保

お客様のニーズを先取りし、お客様のご要望に応え、満足していただける高品質の建設サービスを提供します。

環境の保全

汚染の予防や生物多様性の保全等に努め、環境保全技術の開発、省エネルギー対策、建設副産物対策を積極的に推進します。

社会への貢献

社会とのコミュニケーションを大切に、防災活動や地域交流などを積極的に推進し、豊かで住み良い社会づくりに貢献します。

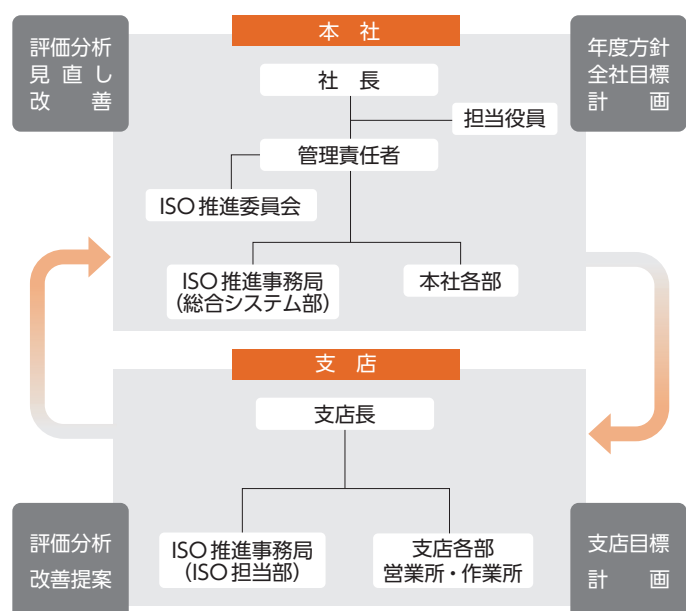
マネジメントシステムの運用

ISO9001規格に基づく品質マネジメントシステムを構築し、PDCAサイクルに基づいた運用を行っています。

毎年一度、本社でISO推進委員会を開催し、すべての運用データをまとめて評価分析し、マネジメントシステムの総合的な見直しを行っています。そしてそれらの結果は、マネジメントレビューのための基礎データとなり、システムの向上につなげています。



マネジメント研修



お客様の満足度向上をめざして

お客様のニーズを把握し、満足していただける建設サービスを提供していくために、受注から引渡しまでの各段階において、本社、支店の各部門がサポートする体制を整えています。

特に施工計画段階においては、品質確保や環境保全のための予防処置の検討に重点を置いています。また、お客様の

評価や貴重なご意見をしっかりと受け止め、その後の対応やお客様の満足度向上に活かすために、それらの情報を教育やイントラネットを通して、全社に展開しています。

また、当社の工事施工や技術者に対して、国土交通省をはじめ、地方自治体、民間企業など、さまざまなお客様から高い評価を頂いています。

国土交通省地方整備局 局長表彰

- 東北地方整備局
(優秀技術者)
- 関東地方整備局
(優良工事・優秀技術者)
- 近畿地方整備局
(港湾・空港建設エキスパート)



東北地方整備局



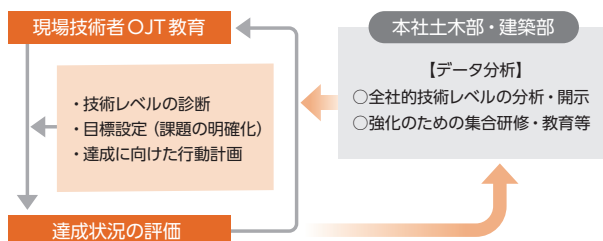
近畿地方整備局

品質及び技術力の向上

技術者教育

品質を向上させるためには、品質を支える技術者の能力を伸ばす必要があります。当社では、システム化されたOJT教育を実施しており、毎年個々の技術者に対して上司が面談して必要な目標・行動計画を設定し、実務上での支援・指導、そして達成状況の評価を行い、レベルアップをはかっています。

また、若手技術者を対象に、施工管理に関する技術研修などを開催し、技術力の向上につなげています。

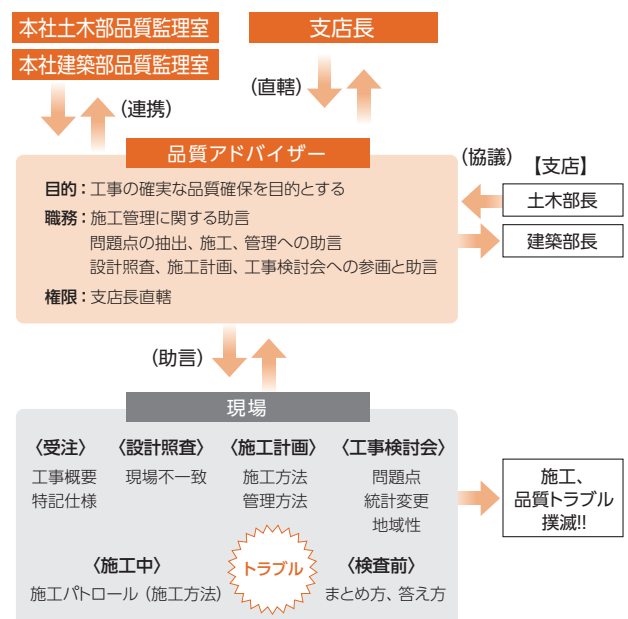


品質監理室及び品質アドバイザーの設置

品質の向上や施工トラブルの未然防止を目的として、本社土木部及び本社建築部に品質監理室を設置するとともに、支店に施工経験が豊富で技術力に優れた品質アドバイザーを配置しています。品質アドバイザーは、工事の品質確保の

ため、工事受注後の計画段階から現場をサポートするとともに、他支店も含め、情報提供や水平展開を行います。

品質アドバイザー制度 概念図



I 恒久グラウトによる浸透注入工法に対する取り組み

背景

臨海部に立地するエネルギー関連企業、化学メーカー、公共ふ頭等では、巨大地震への備えとして、岸壁や護岸など水際施設の強靱化が進められています。稼働中施設の供用を止めることなく、基礎地盤の液状化対策や耐震補強を行う必要がある場合は、地盤改良工法の一つである『恒久グラウトを用いた浸透注入工法』を採用するケースが近年増えてきています。

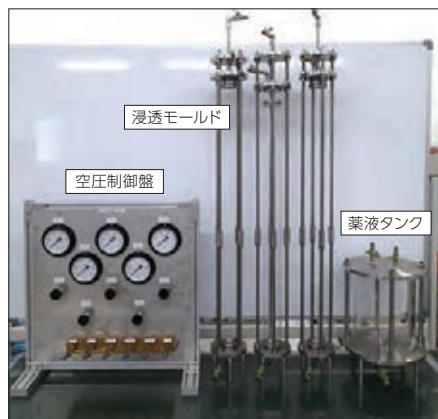
地盤改良の構築物は地中の見えない部分が対象であり、建築物やコンクリート構造物等とは異なり、出来形や品質を確認しづらい側面を持っています。中でも浸透注入工法は、土粒子間の間隙水を恒久的な活性シリカ系薬液に置き換えることを改良原理としています。このため、改良後の強度は、50kN/m²～100kN/m²（一軸圧縮強さ）といった比較的低強度であるため、施工後の品質確認に苦労することが課題としてあげられます。

取り組み 内容

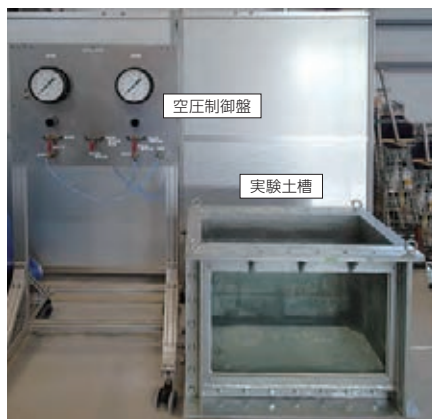
技術研究所（土質・地盤改良グループ）では、浸透注入工法の品質確認に係わる継続的な取り組みとして、以下の研究開発や受注工事の後方支援に取り組んでいます。

- サンプル試料に対する一軸圧縮試験に替わる強度試験および評価手法の検討
- 原位置サウンディング技術、物理探査技術の応用による注入効果判定手法の検討
- 地盤注入開発機構 液状化防止注入協会会員企業として、恒久グラウト浸透注入工法（超多点注入工法、多点同時注入工法、エキスパッカ工法、マルチストレーナ工法等）の技術マニュアルの編纂
- 受注工事に対する事前調査、室内配合試験、事後調査の計画、実施、評価

主な実験 設備



浸透モールド実験装置
（寸法：φ7cm×L100cm、3基）



前面強化ガラス小型実験土槽
（寸法：B75cm×W35cm、H55cm）

浸透モールド

実際のサンプルリングに使う1mのインナーチューブをセットでき、薬液の浸透距離、試料の脱型方法や振動の有無が試料の品質に及ぼす影響を調べることができます。

小型実験土槽

解体可能な鋼製土槽であるため、改良出来形を直接観察することができます。

主な実績

工事名称	発注者	工 法
平成23年度 八代港（外港地区）岸壁（-14m）改良（起点部）工事	国土交通省九州地方整備局	超多点注入工法（多点同時注入工法）
A、B護岸復旧・補強工事（平成23年度）	A社	超多点注入工法（多点同時注入工法）
平成25年度 松山空港滑走路地盤改良工事	国土交通省四国地方整備局	ブランドフレックスモール工法 マルチストレーナ工法
平成25年度 金沢港（大野地区）岸壁（-13m）上部築造工事	国土交通省北陸地方整備局	超多点注入工法（多点同時注入工法）
震災対応棧橋新設工事（地盤改良工）（平成29年度）	B社	超多点注入工法（多点同時注入工法）

I 担当者の声

地盤改良工事の構築物は地中部で見えないからこそ、その出来形や品質を証明するための技術研鑽を惜しまないことが益々求められてくると考えています。研究成果はまだ道半ばですが、室内実験やフィールド実験を積み重ね、課題を一步步解決していこうと思います。



技術研究所
水野 健太

水中位置検知装置を用いた水中測位技術への取り組み

概要

港湾工事における水中作業では、電波の散乱によりGNSSを直接利用することが難しく、水中における簡易かつ正確な位置出し手法の確立は、現在でも技術的な課題として残されています。

工事のICT化が進む近年では、新たな水中位置出しの手法として、主に3Dソナー等を用いた水中可視化技術を用いた技術と、アクティブソナー（船上用トランスデューサー、測位対象物用トランスポンダより構成される音響式位置検知装置）を用いた直接的な水中位置の検知技術が使われはじめました。コンパクトな機材で構成されるアクティブソナーは、簡易で低コストな水中位置出し技術として、既に深海域では地殻変動監視等の非常に高精度な技術が実用されています。しかし、比較的水深の浅い港湾工事では水面、海底からの複雑な音響反射の影響が大きく、安定した測位技術としては十分に確立されていません。そこで技術研究所では、浅海域でもGNSS同様に直接的な位置出しが可能なアクティブソナーを用いた水中位置検知技術の開発に取り組んでいます。



船上海上制御装置

(上:汎用機、下:高精度測位機)



支援ソフトウェア画面

(左:潜水士、ブロック位置の監視、右:高精度測位用 大型潜堤ブロック位置管理)



船上海上トランスデューサー (左:SSBL多素子、右:SBL単素子)



測位対象物用トランスポンダ (左:潜水士用、右:高精度測位用)

適用実績工事

工事名称	発注者	工 法
平成27年度 下田港防波堤築造工事	国土交通省中部地方整備局	大型潜堤ブロック据付
平成28年度 高知港三里地区防波堤（東第一）築造工事（その2）	国土交通省四国地方整備局	被覆、消波ブロック据付
平成29年度 那覇港（浦添ふ頭地区）防波堤（浦添第一）築造工事	内閣府沖縄総合事務局	被覆ブロック据付

その他多数実績（40件超）あり

担当者の声

水中音響の世界は自分にとって未知の世界でしたが、最近は何とか形になってきた実感があります。ナローマルチビーム測深や3Dソナー等の派手な技術の陰に隠れがちですが、港湾土木においてコストパフォーマンスに優れる有効な技術として期待しています。



技術研究所
土屋 洋

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス体制

基本的な考え方

当社は、経営の透明性・効率性を向上させ、持続的な企業価値の向上を図ることを基本方針として、株主をはじめとする全てのステークホルダーとの円滑な関係構築を実現するため、迅速かつ効率的な経営・執行体制の確立を図り、透明性の高い経営の実現に取り組んでいます。

取締役会

取締役会は原則月1回開催し、法令および定款に定められた事項ならびに経営に関する重要事項について審議・決定を行っています。また、必要に応じて臨時に取締役会を開催し、迅速かつ適切な意思決定につとめています。

社外取締役

社内取締役だけでは得られない、客観的で多様な視点から重要な経営上の意思決定に参加するため、経営経験者、学識経験者の豊富な経験と高い見識を有する者2名の社外取締役を選定しております。これにより、取締役会の監督機能を強化し、透明性を高め、より実効性のある取締役会を目指してまいります。

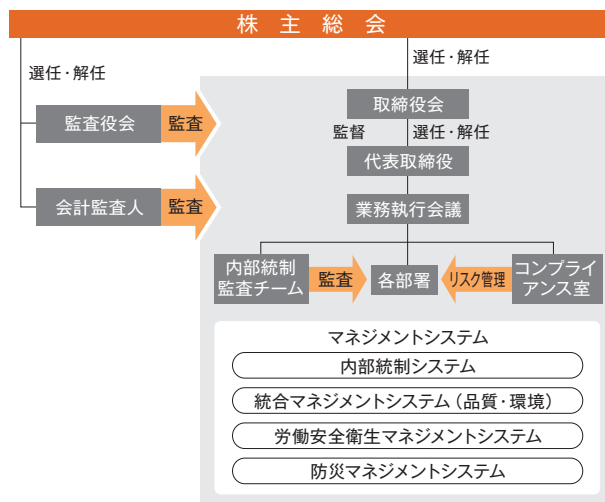
執行役員制度

経営の透明性と健全性を高め、経営環境の変化に即応するスピーディな業務執行ができるよう、執行役員制度を導入しており、経営責任と執行責任の明確化をはかっています。

監査役会

当社は、監査役制度を採用しており、3名の監査役の内、半数以上の2名を社外監査役としています。監査役は、取締役会およびその他の重要な会議へ出席し、重要な決裁書類等の閲覧

等を通じて、取締役の職務執行を監査しています。さらに、内部監査を定期的実施することにより、業務執行の適法性・効率性について監査しています。



※マネジメントシステム

内部統制、品質、環境、安全、防災など主要な業務については、プロセスを明確にした全社一体型のマネジメントシステムとして整備・運用しています。PDCAサイクルにより、機能の強化を進め、業務の効率化をはかっています。

内部統制

内部統制システム

業務の執行が適正かつ健全に行われるため、実効性のある内部統制システムの維持・更新と法令遵守体制の維持に務めています。

社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは、取引関係その他一切の関係を遮断するため、不当要求等については外部機関と連携し、毅然とした態度で適切かつ組織的に対応します。

損失の危険の管理に関しては、危機管理委員会を設置するとともに、リスク管理および法令遵守の徹底の担当部署を置き、リスク管理規程に基づいてリスクが顕在化することを防止するとともに、リスクの軽減を図ります。また、大規模自然災害に備え、社員の安全確保・事業活動の継続・社会貢献を基本方針として防災規程に基づき対策の強化・推進をはかっています。

また、財務報告の適正性を確保するため、必要な内部統制体制を整備・運用しています。

内部統制監査

財務報告の信頼性を確保し、会社の健全性を維持するために、総合システム部を中心とした内部統制監査チームによる内部統制監査を実施することで、内部統制の有効性を継続的に監視し、評価・改善をはかっています。また、各種研修会への参加による内部監査人の監査レベルの維持・向上につとめています。

なお、内部統制監査チームは、監査役に対して定期的に内部統制監査の実施状況を報告し、監査役は必要に応じて随時、報告を要請できる体制となっています。



ISOモデル工事 ～発注者・受注者によるISO9001規格の活用～

平成30年度河津下田道路河津ICランプ橋西下部工事

【工事場所】 静岡県賀茂郡河津町 【工期】 平成30年7月5日～令和元年12月27日(18ヶ月)

【発注者】 国土交通省中部地方整備局

ISO9001活用工事は、働き方改革の一環として運用を始めようとしています。

働き方改革で、労働時間が短くなりますが、配置技術者にも余裕がない中で、効率化や簡素化は急務であり、ISO活用工事は、そこに配慮したものになければならないと思います。現在は試行段階ですので、メリットやデメリットを抽出して、今後の運用に役立てれば良いと考えています。



統括所長
角田 哲也



ISOモデル工事

ISO9001活用モデル工事は、原則、発注者による監督業務の立会が省略されることにより、立会及びその準備に係る労力に加え、立会の手待ちがなくなることや、中間技術検査の減免など、受注者

にとってもメリットのある制度とされています。また、監督業務の効率化と同時に外部機関による品質マネジメントシステムの監査を取り入れ、品質が確実に確保されるようにしています。

外部監査



外部監査 (書類)



外部監査 (現場)

内部監査



内部監査 (書類)



内部監査 (現場)

安全と品質の徹底

平成30年度久慈港湾口地区防波堤本体工事

【工事場所】 岩手県久慈市久慈港港内 【工期】 平成30年4月24日～平成31年3月26日(12ヶ月)

【発注者】 国土交通省東北地方整備局



本工事のケーソン製作は3箇あり、①防波堤に係船されたフローティングドックでの製作と、②ケーソン海上打継場での海上打継作業を併行して行いました。①については、コンクリート打設時、片側交互通行と車両回転場を設置し、他車両との衝突防止に努めました。②については、作業ヤードおよびクローラークレーンが隣接する別件工事と共有使用のため、両者間で責任分担に関する覚書を締結し、作業日やヤードの取合い等の調整を綿密に行い、安全・工程管理に努めました。

作業所長
小玉 恭三

防波堤上での片側交互通行

センサー感知付の信号機を設置し、車両の通行を管理。(車両の通行方向を感知し、対面側の信号を切り替える)

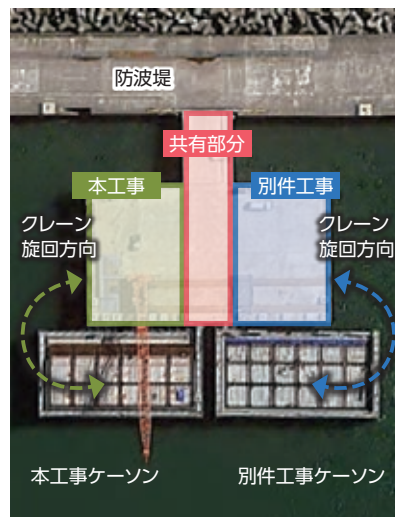


従来、誘導員を配置していた作業において、上記設備により誘導員が巻き込まれることがなくなり災害リスクの低減に繋がった。



海上打継場での取り決め

- 作業ヤードの範囲(責任分担の明確化)
- クローラークレーン使用の日程調整
- クレーンの旋回方向



冬期の給熱養生

厳冬のコンクリート養生として、全面シート張りによる給熱養生を行った。(当地区は、マイナス10℃以下になることも珍しくなく、本施工時も同程度の気温まで下がったが、シート内は常に5℃以上を維持できた)



釜石港湾事務所 感謝状



国土交通省東北地方整備局 局長表彰



発注者パトロール

湯浅御坊道路 湯浅工事

【工事場所】 自)和歌山県有田郡有田川町奥(STA.A-125+54.3) 至)和歌山県有田郡湯浅町山田(STA.A-143+02.0) 施工延長1.7km

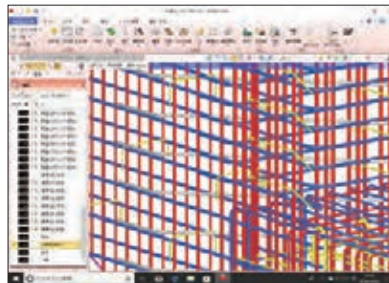
【工期】 平成29年12月7日～令和2年7月23日(32ヶ月) 【発注者】 西日本高速道路株式会社 関西支社

TREND-COREを用い発注図を3D化することで、事前に鉄筋干渉位置を確認できるため、鉄筋の組立精度を向上することができました。また、仮設アンカーの削孔位置を事前に確認できるため、既設構造物に干渉なく精度の良い施工ができました。

インタラクティブホワイトボードを用いた打合わせは、資料や図面を大画面に映せ、かつ直接書き込み可能で印刷がその場でできるため、安全管理、品質管理のポイントを容易に周知することで、安全及び品質向上に努めています。



統括所長
上田 達也



発注図を3D化(鉄筋干渉位置を確認)



インタラクティブホワイトボードを用いた打合わせ

湯浅御坊道路熊井第二高架橋他2橋(下部工)工事

【工事場所】 自)和歌山県有田郡有田川町天満(有田南IC ランプ STA.0+00.0) 至)和歌山県有田郡有田川町奥(STA.a-126+85.8) 施工延長 1.7km

【工期】 平成29年5月2日～令和2年4月15日(36ヶ月) 【発注者】 西日本高速道路株式会社 関西支社

高度な変位抑制を必要とする高速道路供用線直近の、構造物掘削用土留工の設計を円滑に実施するため、WEB会議システムを利用し、本社設計部と設計方針の確認や詳細部分の設計打ち合わせを行うことで、適切な構造物掘削を実施し、品質の向上や供用線への影響の低減に努めています。

昼夜連続で施工する高速道路直近での既設橋の撤去作業や、広大な施工範囲を管理するため、WEBカメラを各所に設置し、ホームページ上に公開することで、管理職員だけでなく大阪支店土木部もリアルタイムに作業状況を確認しています。これにより安全管理の向上・供用線に対する第三者災害の防止に取り組んでいます。



作業所長
黒山 祥平



Webカメラキャプチャー



WEB会議システム

ICT活用工事 ～品質と生産性の向上をめざして～

H30荒川左岸堀切地区浚渫工事

【工事場所】東京都葛飾区 【工期】平成31年4月1日～令和元年8月2日(5ヶ月)

【発注者】国土交通省関東地方整備局



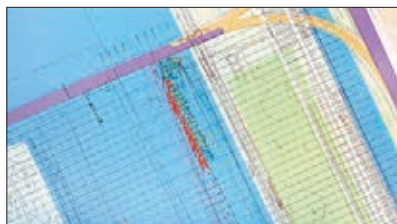
3Dマシンガイダンスシステムによるバックホウ浚渫は、日々の進捗および出来形をリアルタイムに確認できるため、施工管理が容易でした。従来浚渫後に行う事後測量(レッド測量)が不要のため、時間と労力の省力化に繋がりました。浚渫土の運搬は、土運船による海上運搬とダンプトラックによる陸上運搬があり、土運船にはWIT-MVS、ダンプトラックにはVasMapを取り付け運航中の位置、速度をリアルタイムに把握し、安全管理に努めました。

現場代理人
宮田 正昭

ICTの活用

荒川左岸堀切地区浚渫工事では、バックホウ浚渫船に3Dマシンガイダンスシステムを取り付け、リアルタイムに掘削位置と掘削深さを管理することで、※効率的に浚渫を行いました。尚、浅海用コンパクトナローマルチビームソナーにより3次元起工測量を行い、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成しました。

※出来形管理にかかる人工数を11人(19→8人)、建設機械による施工を22人(172→150人)削減できた。



茶
赤
黄
緑
青
水色
紫

▽+0.90m
▽+0.45m
▽+0.15m
▽-0.15m
▽-0.45m
▽-0.90m

▽出来形基準値+400以下
▽自主管理基準+150以下
▽設計高さ

施工履歴データを用いた出来形管理

工事用車両運行支援システム「VasMap」を活用した情報化施工

VasMapは携帯型GPSを各車両に搭載し、そのGPS情報をインターネット上で確認できるシステムであり、運行ルートの逸脱やスピード超過、危険場所手前での注意喚起ができます。

本システムを使用することで、ダンプ運転手の安全運行に対する意識の向上を図り、リアルタイムで指示をすることで、事故・苦情0で工事を完成することができました。



VasMap(陸上運搬)

作業船運航支援・施工管理支援システム(WIT-MVS)を活用した情報化施工

ネットワーク設定されたタブレットを作業船に搭載することで、AISを搭載した一般航行船舶と作業船の運行状況をリアルタイムで把握できました。また、現在の航行状況より10分後の予測位置を特定できるため、タブレットから操船者がリアルタイムで危険を察知することが可能となりました。



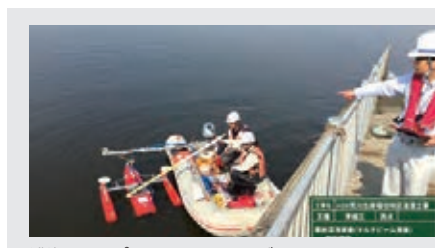
WIT-MVS(海上運搬)

通信一体型現場監視カメラを活用した情報化施工

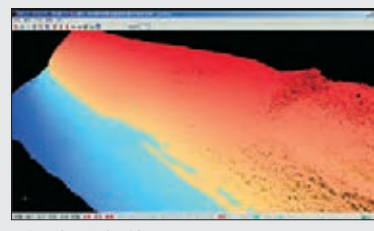
現場に監視カメラを設置し、事務所や職員携帯のタブレットでリアルタイムな現場状況を確認しました。



Webカメラによる状況確認



浅海用コンパクトナローマルチビームソナー



3次元起工測量結果

平成30年度 138号BP須走地区北道路建設工事

【工事場所】 静岡県駿東郡小山町 【工期】 平成30年10月25日～令和元年10月31日(13ヶ月)

【発注者】 国土交通省中部地方整備局

今回使用したICT建機(ブルドーザ)は、マシンコントロールで敷均し高さを設定すると、設置した高さよりもブレードが下がらないため、今まで熟練のオペレータにより行っていた精度の良い敷均し作業を誰でも行うことができました。また、締固め試験施工を行い、転圧管理システムを使用することで締固めエリアの転圧回数、転圧不足が管理でき、品質および精度の良い施工を行うとともに省力化を計り工程短縮に寄与できました。



作業所長
越智 聖剛



ICTの活用

138号BP須走地区北道路建設工事では、土工(盛土部分)にマシンコントロールシステムを搭載したブルドーザおよびバックホウを用い、作業の効率化・自動化を図り、高精度な施工を行いました。また、「生産性向上チャレンジ工事」の試行工事となっており、補強土壁工の裏込め施工にもICTを活用することで、省人化等の生産性向上に資する取り組みを行いました。



平成30年度 138号BP須走地区北道路建設工事 全景



iPad使用状況

iPad (モニタ)

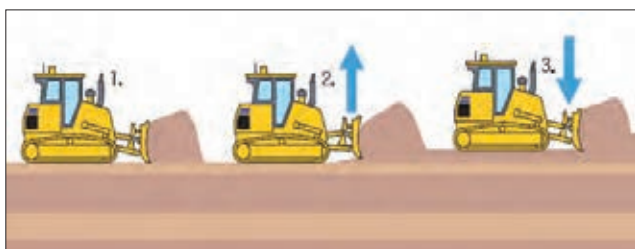


ICT建設機械(ブルドーザ)

運転席(モニタ)



補強土壁工の裏込め施工「生産性向上チャレンジ工事」



自動ブレード制御のしくみ

1. ブレード負荷が増大すると
2. シュースリップが起らないように自動でブレードを上げ、負荷をコントロールします。
3. 常に抱えられる最大の土量で効率よく施工できます。



作業現場にて



ICT活用工事 ～品質と生産性の向上をめざして～

篠栗北地区産業団地造成工事

【工事場所】 福岡県糟屋郡篠栗町 【工期】 平成30年2月6日～令和2年4月30日(27ヶ月)

【発注者】 福岡県糟屋郡篠栗町



現場は17haと広いので、日々の進捗出来形管理は※EverydayDroneを使用しています。EverydayDroneは設定したルートを自動操縦で飛行(20分)し、画像処理(90分)を自動で行うため、日々の打合せで施工エリア毎の数量を把握できるため、重機の配置計画に非常に役立っています。

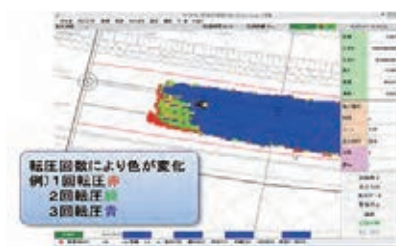
※EverydayDroneは、国交省規定のUAV測量精度±5cmをクリアしていない(衛星の状態によっては10cm程度の誤差が出る)ため、起工測量・最終出来形測量には利用できない。



現場代理人
坂井 孝司

ICTの活用

篠栗北地区産業団地造成工事は、土工数量(切土66万m³、盛土50万m³)が多いため、工期の短縮と生産性の向上を目的にICT土工を導入しました。法面丁張設置にかかる時間は、概算で210時間の削減効果が見込まれています。



転圧管理システム

Everyday Droneの概要

日々の施工出来形を目視で確認できる

- ・設定したルートを自動操縦で飛行
 - ・画像処理を自動で行い処理時間を大幅に縮減(飛行時間20分+処理時間90分)
- ※処理時間
従来は2日程度要していた作業量をEdgeBoxにより90分で処理可能
→毎日(Everyday)の計測が可能



参考資料

プレゼン動画

<http://www.wakachiku.co.jp/csr/csr2019/201908presen.mp4>

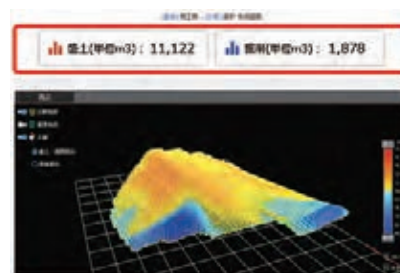
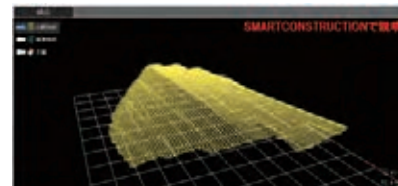


ドローン動画

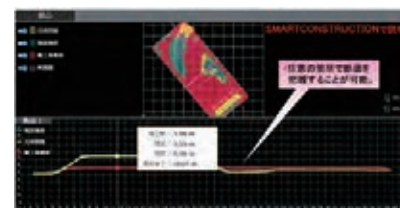
<http://www.wakachiku.co.jp/csr/csr2019/201908drone.mp4>



設計3Dデータの活用



現況データと設計データを重ね合わせることで、盛土量および切土量を確認できる



任意の断面で現況出来形を確認できる

(仮称)八丁堀3丁目共同住宅新築工事

【工事場所】 東京都中央区 【工期】 平成30年11月1日～令和2年3月31日(17ヶ月)

【発注者】 双日新都市開発株式会社

作成した工程表や作業分担表を画像として電子野帳システムのeYACHOに取り込み電子ノート化し、Appleペンシルで指示やメモを書き足して作業現場の職員で共有して見えています。また図面データをシェアノート上に貼り付け、複数人で同時に書き込みながら打合せを行うなど、迅速な情報共有に役立てています。今後は新規導入教育時にeYACHOのレーザーポインタ機能を使って、安全指示や説明を行いたいと考えています。



作業所長 川合 将志



ICTの活用

(仮称)八丁堀3丁目共同住宅新築工事ではiPadでeYACHOを活用することで作業の効率化を行い、生産性向上に役立てています。



eYACHO活用例 (サイクル分担表)

eYACHOは、iPad上で職員全員が共有(確認・書き込み)できるノートを作成できます。本工事ではeYACHOのノート機能を利用して分担表および指示書を作成しました。分担表は担当者毎にやらなければならないことを明示し、実施中には青レ点、完了には赤レ点を記入するため、どの作業がどこまで完了しているか一目瞭然で管理できます。また指示書は平面図に写真を貼り付け指示事項を記入し、完了した指示事項にはOKマークを付けて管理しているため、指示事項のやり残しを防止できました。



担当技術者
山口 超司



eYACHO活用例 (指示書)



eYACHO ノート作成手順



奨学金制度

- すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を提供
- 強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化及びイノベーションを推進

若築建設奨学金制度

わが国は海洋国家であり、国際貿易の基盤や海洋利用・開発の基盤を支える「人と技術」を育てていくことが必要です。しかしながら、わが国の少子高齢化の進展等から、将来、これを担う技術者の不足が懸念されています。

このため、当社と、港湾空港技術研究所、長岡技術科学大学は、「海洋国の礎を築くための人材育成と研究開発」を連携協力しながら進めています。

連携協力の一環として、質の高い技術教育及び高等教育への平等なアクセスを得られるようにするため、若築建設

奨学金制度を創設しました。本制度は、高等専門学校において建設技術に関連する学問を専攻し、経済的理由により学業の継続・進学が困難である学生への奨学金給付を行い、海洋利用開発に高い志を持つ若手技術者の育成に貢献することを目的としています。

現在、14名の学生に奨学金を給付しており、「ものづくり」を通じて得られる、やりがい・感動・達成感が満載の建設会社において活躍したいと考えている学生を、今後も応援していきます。

連携協力の内容

1. 奨学金、教育

高専本科4年生(準学士課程)より、最大4年間、奨学金の給付を行います。また、本奨学金受給者を対象とし様々な実務研修を提供します。

2. 共同研究

当社、港湾空港技術研究所、長岡技術科学大学の三者は、必要に応じ、連携して海洋利用開発の研究を行います。

奨学生懇談会(2019年9月5日~6日)の様子

建設業ならびに海洋土木を学ぶ場、また、将来の進路を考える場として、奨学生懇談会を毎年開催しています。



国際圧入学会 日下部会長の講演



長岡技術科学大学 市坪教授によるチームワーク研修



当社本店にて集合写真



わかちく史料館の見学

水難救助活動への協力

青い羽根募金

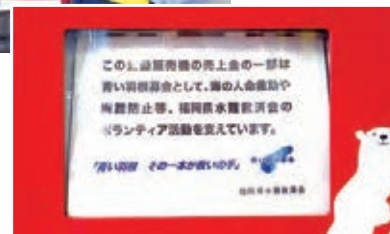
青い羽根募金は、(社)日本水難救済会が展開しており、当社は平成15年度より全社を挙げて募金活動に取り組み、平成30年6月5日には長年の募金活動の功績が認められ、名誉総裁であらせられる高円宮憲仁親王妃久子殿下から当社代表取締役社長に対して感謝状および名誉総裁盾が授与されました。名誉総裁表彰の授与は平成24年5月28日の授与に続き2回目の授与となっています。

青い羽根募金とは

海で遭難した人々の救助活動にあたる全国のボランティア救助員の方々約52,000人を支援するための募金です。

青い羽根募金支援自販機の設定

青い羽根募金支援自販機から飲み物をご購入すると、売上金の一部が青い羽根募金として寄附されます。



青い羽根募金の受賞履歴

2003年～ 2018年	事業功労表彰 (会長表彰) 16年間連続
2012年	事業功労表彰 (名誉総裁表彰)
2018年	事業功労表彰 (名誉総裁表彰)



高円宮憲仁親王妃久子殿下より感謝状の授与



感謝状および名誉総裁盾



弊社にて会長表彰を授与

災害に備えて ～社会インフラと地域の人々を災害から守る～

地震や台風、豪雨などによる大規模災害は毎年のように繰り返し発生しています。地震や台風の発生を防ぎようがなく、被害を最小限に食い止めるためには日ごろからの備えが重要である事は言うまでもありません。当社は、大規模災害の発生に対し、社会インフラの迅速な復旧など建設会社としての社会的責任を果たすことができるよう、事業継続計画(BCP)を策定し、防災基本方針に沿って防災体制を整備しています。

防災 基本方針

- 人命の安全確保を最優先する
- 事業活動の維持、早期復旧を図る
- 地域社会の防災活動や災害の復旧、各種支援活動に積極的に取り組む

事業継続計画(BCP)

大規模災害発生時の対応として通常状態への業務復帰や災害復旧支援の計画をはじめ、災害備蓄品の準備などを含めた事業継続計画(BCP)を策定し、災害発生に備えています。

また、大きな地震が発生した場合などに、社員の安否を確認し、復旧体制をいち早く整えるため、携帯電話等を利用した、「災害・安否確認システム」を採用し、毎年4月に海外事業所も含めた安否確認訓練を行い、同時に社長を本部長とする「災害対策本部」を立ち上げる訓練を行っています。



災害対策本部長立上げ訓練

避難・消火訓練

本社および各支店で災害自警団を組織し、災害発生時の消火・避難・救護体制を整備し、いざという時に備えて避難訓練や消火訓練などを繰り返し行っています。また、応急救命講習会を実施し、救命技能認定者の養成を推進しています。



消火訓練

自衛消防審査会

東京消防庁では、事業所の自衛消防隊が日ごろの訓練成果を発揮し消防技術の向上を図ることを目的とした審査会を毎年開催しています。2018年9月に行われた目黒消防署の審査会には、本社及び東京支店のメンバーで編成した男子隊と女子隊が参加し共に好成績をおさめました。



女子隊



男子隊表彰

地域防災への取り組み

本社・東京支店では、東京消防庁の災害時支援ボランティアに登録しています。この活動は災害発生時に消防隊の後方支援に協力し、小学校の防災訓練で消火器やAEDなどの機材取り扱いを指導したり、地域防災訓練の場で住民の方々と一緒に訓練を行うなど積極的に活動しています。



水防訓練



被災者救出訓練

災害支援活動

災害支援

関空連絡橋損傷への対応

西日本高速道路株式会社関西支社長より、当社大阪支店へ、感謝状贈呈(2019.4.1)

* 2018.9.6 17時～2018.9.7 5時、台風21号の影響によりタンカーが関空連絡橋に衝突し損傷した。無事だった橋(3車線)を片側交互通行にするため、作業員14人を派遣し、橋の中央部に仮設防護柵(ガードレールで中央分離帯)を設置した。



大阪支店へ感謝状贈呈(鎌田所長)



西日本高速道路株式会社関西支社 感謝状

平成30年7月豪雨(西日本豪雨)への対応

国土交通省中国地方整備局長より、当社中国支店へ、感謝状贈呈(2018.10.1)

* 2018年7月豪雨災害に伴い、支援物資を提供した。また、呉阿賀マリノでの清龍丸による入浴支援に伴い、交通誘導員の要員依頼に対応した。



災害対策関係功労者感謝状伝達式(最後列右端 谷本支店長)



国土交通省中国地方整備局 感謝状

基礎的事業継続力の評価・認定制度

国土交通省では、災害時の緊急輸送体制の確保や堤防、港湾などインフラの復旧にすばやく対応する必要性から、一定の事業継続力を備えている建設会社の協力を得る制度を進めています。

この制度は、建設会社が備えている基礎的事業継続力を地方整備局が評価し、適合した建設会社を認定し公表することにより、地方整備局の災害対応業務の円滑な実施と地域防災力の向上を目指すものです。

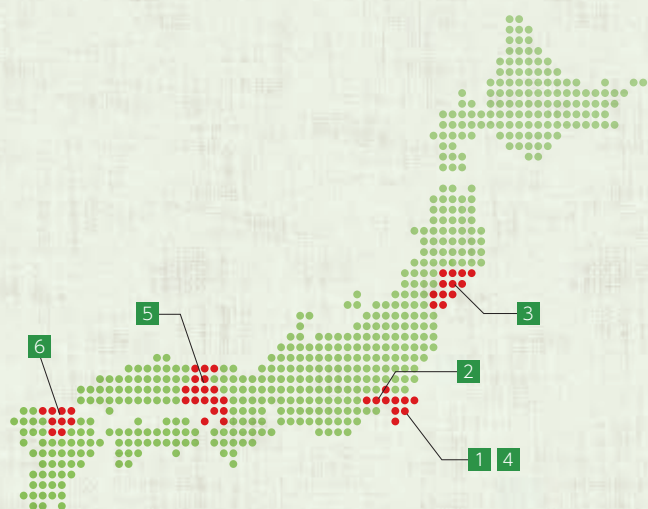
当社では、関東地方整備局、近畿地方整備局をはじめとする各地方整備局において認定を受けており、災害が発生した場合に復旧作業のための建設機材や資材等をすばやく準備できる体制を整えています。



災害時の基礎的事業継続力 認定証
(国土交通省関東地方整備局)

地域社会とともに

「防災、環境保全、地域社会との交流などの活動を推進し、社会貢献に努める」ことを社長方針のひとつに掲げています。地域社会とのコミュニケーションは工事施工を円滑に進めるうえでも大切であると認識し、全国各地でさまざまな活動に積極的に取り組んでいます。



1 夏休み子供体験教室 千葉県

2019年7月に国土交通省 関東地方整備局 関東技術事務所で「夏休み子供体験教室2019」が開催され、当社は、土木学会建設用ロボット委員会の活動の一環として、社有起重機船「若鷲丸」の模型を使った体験コーナーを展示しました。

「浚渫ってナニ？ 何のためにやるの？」という説明をした後、土砂に見立てたビーズ浚いを楽しんでもらいました。



会場全景

2 東京港クルージング&現場見学会 東京都

2018年11月に大田区立大森小学校の児童を招いて東京港クルージングと現場見学会を開きました。5年生20名の児童と先生が参加し、東京港内の4つの現場と港区の物流博物館を見学しました。

防潮堤建設工事では、屋形船の上で作業所の女性技術者（ミャンマー出身）が自身の工事を説明し、児童たちに建設業の面白さをアピールしました。



護岸の耐震補強工事では、実際に袋に砂を詰める土のう作りを体験したり、港湾模型を使って津波に対する効果を確認したりしました。



3 みやぎスマイルポートプログラム 宮城県

宮城県がボランティア活動に意欲を持つ団体を「スマイルサポーター」に認定し、港湾や海岸の一定区域を、団体ごとに割り振り、清掃や美化活動を行う制度です。長年に渡り、東北支店および石巻営業所が登録し活動しています。



東北支店



石巻営業所

4 千葉港海岸(検見川の浜)清掃 千葉県

千葉港海岸の埋立工事を施工したことから、千葉支店が中心となって検見川地区や稲毛地区の海岸の清掃活動を行っています。この活動は1993年から継続しており、今年は社員や協力会社のほか千葉海上保安部の方にも参加いただき、プラスチックごみを中心に拾い集めました。



5 リフレッシュ瀬戸内清掃活動 兵庫県、大阪府

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会が主催するこの活動に、近畿、中国、四国の瀬戸内海に面した大阪支店管内の各地において毎年清掃活動に参加しています。



大阪府泉佐野市



兵庫県須磨海岸

6 北九州マラソン 福岡県

北九州市制50周年を記念して2014年より毎年開催されている「北九州マラソン」。当社発祥の地である北九州を盛り立てるべく、第1回大会から協賛しています。

有志一同がレースに出場した他、多くの社員で応援団を結成して、道行くランナーに熱い声援を送りました。



環境データ ～数字で見る環境保全活動～

環境目標

「建設業の環境自主行動計画 第6版」（一般社団法人 日本建設業連合会）が掲げる目標の達成に向け活動しています。

当社の目標及び実績			
施工段階におけるCO ₂ の排出抑制	工種	2020年度目標	2018年度実績
	海上土木工事	120t-CO ₂ /億円 以下	56.4t-CO ₂ /億円
	陸上土木工事	57t-CO ₂ /億円 以下	45.3t-CO ₂ /億円
	建築工事	12t-CO ₂ /億円 以下	20.2t-CO ₂ /億円
建設副産物対策	建設汚泥の再資源化等率	2020年度までに90%以上	93%
	建設発生土の有効利用率	2020年度までに80%以上	40%

環境会計

対象範囲：国内事業所のみとし、関係会社は含みません。 対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日

集計方法：環境保全コストは、18工事をサンプリング抽出し、完成工事高により全社換算しました。サンプル抽出した工事は、完成工事高全体の18%に相当します。なお、サンプリングの対象は、単独および当社が幹事会社である共同企業体工事です。

準拠基準：「建設業における環境会計ガイドライン2002年度版」（日建連）および「環境会計ガイドライン2005年版」

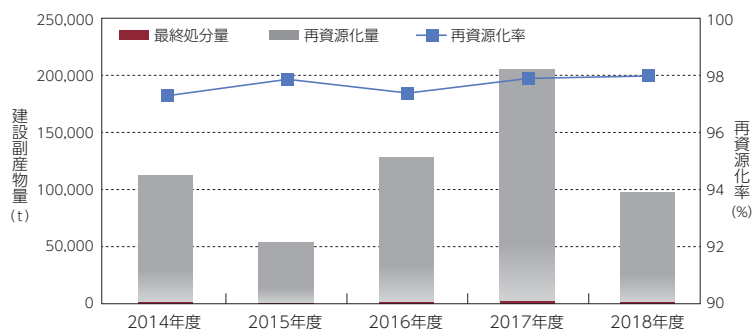
環境保全コスト

分 類	内 訳		費用(百万円)				
			2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
事業エリア内コスト	公害防止コスト	水質汚濁防止、騒音・振動防止	1,167	1,399	1,279	1,953	1,748
	資源循環コスト	産業廃棄物・一般廃棄物の処理・処分	745	1,309	584	825	966
	小計		1,912	2,708	1,863	2,778	2,714
上下流コスト	環境配慮設計		4	4	4	4	4
管理活動コスト	監視・測定、環境教育や事業所周辺の緑化・美化などの環境改善対策		41	22	84	21	27
研究開発コスト	環境保全に関する研究開発		17	6	29	32	29
社会活動コスト	工事のイメージアップや地域の緑化・美化などの環境改善対策		32	44	51	1	53
環境損傷対応コスト	環境リスクの対応費や環境損傷の保険料など		6	13	4	18	22
計			2,012	2,797	2,035	2,854	2,849

環境保全効果

分 類	項 目	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
事業エリア内効果	建設廃棄物リサイクル量	70,188t	42,955t	94,504t	151,798t	50,721t
	工事による温室効果ガス排出量	40,482t-CO ₂	57,979t-CO ₂	53,428t-CO ₂	57,669t-CO ₂	39,775t-CO ₂
	オフィスの温室効果ガス排出量	1,037t-CO ₂	1,210t-CO ₂	1,175t-CO ₂	1,110t-CO ₂	911t-CO ₂
上下流コスト	高炉B種セメント	31,854t	8,647t	8,682t	12,012t	2,701t
	再生砕石	173,399t	191,397t	24,489t	180,734t	49,844t
	再生アスファルトコンクリート	7,903t	4,512t	5,278t	33,212t	3,403t
	グリーン購入(事務用品など)	21,875千円	22,397千円	26,870千円	25,504千円	26,110千円

建設副産物の再資源化量と再資源化率



2018年度は2017年度に比べ総排出量（建設発生土を除く）が半減しました。再資源化率は例年同様高い水準を維持しています。

今後は、森林などの自然環境保護や建設物のライフサイクルを考慮した資材調達などに関する取り組みも進めていきます。

マテリアルフロー

INPUT

主要建設資材	
セメント	3,153t
生コンクリート	135,622m ³
アスファルトコンクリート	7,808t
鉄鋼製品	168,277t
碎石	280,047t
主要再生資材	
再生アスファルトコンクリート	3,403t
再生碎石	49,844t

施工での投入エネルギー	
電力	224万kwh
軽油	17,716kℓ
A重油	397kℓ
灯油	7.7kℓ
オフィスでの投入エネルギー	
電力	124万kwh
ガソリン	112kℓ
灯油	15.2kℓ

OUTPUT

建設副産物排出量	
コンクリート塊	34,615t
アスファルトコンクリート塊	8,482t
建設発生木材	2,847t
指定副産物以外廃棄物	5,216t
建設汚泥	47,758t

再資源化量	
コンクリート塊	34,612t
アスファルトコンクリート塊	8,469t
建設発生木材	2,844t
指定副産物以外廃棄物	4,796t
建設汚泥	46,200t

最終処分量	
建設廃棄物	1,997t

CO ₂ 排出量	
工事	39,775t-CO ₂
オフィス	911t-CO ₂

※指定副産物
建設リサイクル法で再資源化が義務づけられている、コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊および建設発生木材

当社が携わった再生可能エネルギー関連事業 (2002年~2018年)

	年間発電量総計 (百万kWh/年)	CO ₂ 削減量 (千t/年)	ドラム缶 (千本/年)	備 考
太陽光発電	200	89	230	火力発電所で消費する石油(1kWh当たり0.227ℓ)をドラム缶(200ℓ)で換算
風力発電	754	487	860	
バイオマス発電	1,864	984	2,120	
小水力発電	9	6	10	
計	2,830	1,570	3,200	
			8,800本	1日当たり

※年間発電量28億3,000万(kWh)は、1世帯当たりの年間消費電力を3,500(kW)とすると、約81万世帯分にあたります。これは、長野県の世帯数と同程度です。

※ドラム缶に換算すると、1年間で320万本、1日当たり8,800本の石油を消費せずに済んだこととなります。



130周年、新たに。



この印刷物は、E3PAのシルバー基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
E3PA:環境保護印刷推進協議会
<http://www.e3pa.com>

